

平成 24 事業年度  
(平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日)

# 業務実績報告書

独立行政法人 日本万国博覧会記念機構

## 目 次

### 平成24年度に係る業務の実績

1. 業務運営の効率化に関する目標を達成するための措置	… 1頁
(1) 共通事項	… 1頁
① 経費の削減	… 1頁
② 給与水準の適正化等	… 1頁
③ 業務の更なる民間開放	… 2頁
④ 組織体制の見直し等	… 2頁
⑤ 業務遂行体制の整備	… 3頁
(2) 公園に関する事項	… 3頁
① 中期目標期間中の公園整備	… 3頁
② 随意契約の適正化	… 3頁
③ 公園敷地の有効活用等	… 5頁
(3) 基金に関する事項	… 5頁
2. 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に 関する目標を達成するための措置	… 6頁
(1) 公園に関する事項	… 6頁
① 利用者に対するサービスの向上	… 6頁
② 環境保全への積極的な貢献	…17頁
③ 民間団体との協働による地域社会への積極的な貢献	…21頁
(2) 基金に関する事項	…30頁
① 効果的な助成金の交付	…30頁
② 助成対象事業についての事後評価の実施	…32頁
③ 助成金の交付に係る選考手続き等における客観性及び 透明性の確保	…33頁
④ 民間知見の活用	…36頁
(3) 公園事業への繰入れの拡大	…37頁
(4) 基金の運用及び管理における客観性及び透明性の確保	…37頁
3. 予算、収支計画及び資金計画	…38頁
(1) 公園に関する事項	…38頁
(2) 基金に関する事項	…39頁
4. 短期借入金の限度額	…39頁
5. 重要な財産を譲渡し、又は担保に供しようとするときの計画	…39頁
6. 剰余金の使途	…39頁
7. その他財務省令で定める業務運営に関する事項	…39頁
(1) 人事に関する計画	…40頁
(2) 施設及び設備に関する計画	…41頁
(3) 公園内の安全管理	…41頁
別紙1. 日本万国博覧会記念基金事業審査会委員名簿	…45頁
別紙2. 日本万国博覧会記念基金平成24年度交付決定事業一覧	…46頁
別紙3. 予算、収支計画及び資金計画の計画に対する実績	…49頁
別紙4. 予算、収支計画及び資金計画に関する実績の経年比較表	…54頁
別紙5. 貸借対照表及び利益の処分に関する書類の経年比較表	…55頁
別紙6. 公園整備等に関する計画の執行実績	…56頁

## 平成 24 年度に係る業務の実績

### 1. 業務運営の効率化に関する目標を達成するための措置

#### (1) 共通事項

##### ① 経費の削減

○ 平成 24 年度の一般管理費(総人件費を除く。以下同じ。)は、1,827 百万円となり、年度計画(1,902 百万円以内)に対し、▲75 百万円(▲3.9%)の更なる削減となった。

また、第 2 期中期計画に定めた削減目標(平成 18 年度を基準として▲6.7%削減)に対しては、▲11.9%の削減と目標を上回っている。

年 度		18年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
実績	一般管理費	2,073	2,009	1,975	1,937	1,907	1,827
	削減率	—	▲3.1%	▲4.7%	▲6.5%	▲8.0%	▲11.9%
年度計画	一般管理費	—	2,036	2,072	1,990	1,957	1,902
	削減率	—	▲1.8%	▲0.1%	▲4.0%	▲5.6%	▲8.2%

※ 削減率は平成 18 年度(実績)に対する割合

○ 平成 24 年度における経費削減に向けての主な取組みは、以下のとおりである。  
イ 前年度に引き続き、工事等の契約における競争的な契約の徹底による工事費等の削減(約 159 百万円)に努めたほか、インドアテニスコート等の LED 化改修工事を実施した。

※ 工事費等の削減額は、競争入札の実施による、設計金額と落札額(契約額)との差額である。

ロ また、民間のノウハウを活用してコストの削減を図るため、前年度に引き続き NPO 法人等から、企画提案書の提出を受け、業務内容の質的低下とならず、また、利用者の立場等の観点からの公園管理が図られるよう十分留意したうえで、花壇管理業務や花園創出管理業務などの公園業務の一部(10 業務)を委託した(コスト削減効果は、約 30 百万円)。

○ なお、物品等の調達に当たっては、「環境物品等の調達の推進を図るための方針」(平成 24 年 4 月)に示された基準に適合した物品の調達に努めた結果、平成 24 年度の環境物品等の調達割合は 100.0%となった。

○ 節電実行計画等の実施に伴う経費の削減

(実施期間 平成24年7月2日～9月7日・平成24年12月3日～平成25年3月29日)

節電実行計画に基づく、LED照明の導入、減灯、消灯、室温管理の徹底、その他の取組みや通年での節電の取組みの結果などで、平成24年度は、平成22年度に比べ電力使用量で23.8%、電気料金で10.2%の削減を達成した。

#### 電気使用量及び料金推移

年度	電力使用量	電力料金	平成 22 年度比増減	
			電力使用量(%)	電力料金(%)
22	14,816,451kwh	207,880,675 円	—	—
23	13,100,899kwh	194,964,765 円	▲1,715,552kwh(▲11.6%)	▲12,915,910 円(▲6.2%)
24	11,291,174kwh	186,603,621 円	▲3,525,277kwh(▲23.8%)	▲21,277,054 円(▲10.2%)

#### ② 給与水準の適正化等

○ 人件費全体の抑制について

「国家公務員の給与の改定及び臨時特例に関する法律」が平成24年3月に施行されたことに鑑み、当機構においてもその趣旨と重要性を認識し、労使協議を経て、平成24年4月から人事院勧告に準じた給与改定(本給の引下げ(平均改定率▲0.23%))を行うとともに、次表のとおり、平成24年4月から平成26年3月までの2年間、給与の特例減額を実施することとした(なお、平成24年4月分給与に係る特例減額相当額については、平成24年6月期の期末手当から減額調整した)。

(参考) 当機構における給与の特例減額

区 分		減額率
役員報酬月額		▲9.77%
職 員 本給月額	部長級	▲9.77%
	課長級・課長補佐級・係長級	▲7.77%
	主事級・技師級	▲4.77%

※上記のほか、管理職手当・地域手当・期末勤勉手当・超過勤務手当についても国家公務員と同一の減額率を適用し、減額を実施している。

この結果、平成24年度の特例減額による給与削減額は次表のとおりとなった。

勘定区分	削減額
全 体	29,993,718 円
1号勘定	27,661,939 円
2号勘定	2,331,779 円

※減額対象者48名(役員4名+常勤職員44名(契約職員を除く))

○ ラスパイレス指数について

24年度の当機構職員と国家公務員及び他の独立行政法人職員との給与水準の比較指標(ラスパイレス指数)は、対国家公務員で111.7(23年度108.9)、対他法人で104.9(23年度103.4)となり、前年度と比較してそれぞれ2.8ポイント、1.5ポイントの増となった。

これまで労使協議を経て、人事院勧告に準拠した給与の引下げに加え、指数を低減させるための機構独自の取組みも行ってきたところであるが、24年度については調査対象者の入れ替わり等により、指数が増となった。

【平成24年度に行った取組み】

- ① 「管理職手当」について、職員組合の合意を得て、平成24年4月から国家公務員に準じ、定率制から定額制に移行した。
- ② 「国家公務員の給与の改定及び臨時特例に関する法律」の施行を踏まえ、国家公務員に準じ、平成24年4月から本給の引下げ(平均改定率▲0.23%)を行うとともに、平成24年4月から平成26年3月までの2年間、給与の特例減額を実施することとした。

今後とも給与水準について検証を行い、適正化に努めていくこととしている。

また、これらの給与水準に関する検証及び適正化の取組状況については、平成25年6月28日に当機構ホームページにおいて公表した。

③ 業務の更なる民間開放

イ. 集客向上のための「万博公園だより」の配布については、複数年度契約(平成23・24年度)の2年目にあたり、公園事業の認知度アップ、情報発信の強化による集客向上を図るため、引き続き民間開放として、毎月60万部を大阪府北摂地区と阪神地区の各家庭・店舗・病院に配布した。

また、毎月8万部を上限に万博記念公園沿線の電鉄駅や公共施設等にも直接配布した。

ロ. 平成24年度は民間開放として次の新規事業に取り組んだ。

○ 集客やサービス向上のための各種イベントの充実

・万博公園四季イベントにおいては、一層の来園者サービスと満足度の向上を図るため、各種イベントの持ち込み・質の高い露店出店、協賛社による平日の来園者プレゼント(花の種・球根等)などの誘致活動を新たな民間開放とするため入札方法を一般競争入札から総合評価方式に変更した。

○ メディア等とのタイアップ

・東の広場で当公園初のコブクロフリーライブ(朝日新聞主催の5万人規模)を、新たな民間開放として行った(9月9日)。

④ 組織体制の見直し等

○ これまで、常勤職員48名という限られた人員で当機構に対する様々な要請や課題に的確かつ

迅速に対応すべく努めてきたところであり、24年度においても、大阪府が実施する「万博記念公園南側ゾーン活性化事業」及びガンバ大阪新スタジアム建設に係る関係機関との協議等を円滑に進めるため、関係各課から担当者を選定し、理事を筆頭とした組織横断的なワーキンググループを設けて対応している。

- 定例の部課長会議等の機会を捉えて各課の業務遂行状況や課題を把握し、問題点があれば改善し、より効率的・効果的な業務運営が可能な組織体制となるよう努めた。
- 当機構の管理運営に関する重要事項を審議し、理事長に対する助言を行うことを目的として、外部有識者により構成される「評議員会」を設置しており、24年度は8月1日に当機構において開催した。いただいた主なご意見と対応状況等は、次表のとおりである。

主 な ご 意 見	対 応 状 況 等
・国際化推進の観点から、基金事業を通じて、引き続き海外との人物・知識の交流を深めてほしい。	・引き続き、国際文化交流・国際親善等、国際相互理解の促進に関する事業をはじめとする基金助成事業を着実に実施してまいりたい。
・経費の削減を進める中においても、公園の維持管理については、質の低下を招かないよう工夫しながら進めてほしい。	・来園者サービスの向上や安全・安心の観点からも、総合評価落札方式やNPOとの協働を実施するなど、質の低下を招かないよう十分留意しながら、経費節減目標を達成できるよう努めてまいりたい。

## ⑤ 業務執行体制の整備

- 職員の勤務実績・能力・適性等を適切に把握し、職員の資質・能力及び業務効率の向上を図るため、毎年度、全職員を対象として「勤務評価」を行っており、その結果を昇任・昇給・人員配置に反映させている。
- 平成24年4月1日付けの昇任・昇給については、23年度に実施した勤務評価の結果を反映させるとともに、評価の過程で得た情報を活用し、適材適所の人員配置を行った。
- 24年度の勤務評価に当たっては、下期から新たに「目標設定票」(チャレンジシート)を導入した。  
各職員が上司と相談しながら自主的に業務の目標を設定し、その成果について自己評価を行うことにより、組織における自己の役割を確認させるとともに、業務に対する意欲の向上、業務の改善、職員の指導・育成等に役立て、また、勤務評価時の参考としている。
- 平成24年10月に評価者による職員面談を行い、希望者に前年度の評価結果を開示するとともに、チャレンジシートで設定した目標についての意見交換や職員の業務に対する要望・意見等の聴取を行い、職員の資質・能力の向上が図られるよう必要な指導・助言を行った。  
また、平成25年2月に評価者による勤務評価を実施するとともに、職員面談を行い、業務に関する希望等のヒアリングを行った。
- これらの取組みにより、業務の成果や職員の能力・適性、業務への取組姿勢等を評価し、その結果を平成25年4月1日付けの昇任・昇給・人員配置に反映させた。
- さらに、6月及び12月に支給した勤勉手当において、勤務評価を反映させ、成績が「特に優秀」な職員に対して、支給割合を0.1月分上積みして支給した。

## (2) 公園に関する事項

### ① 中期目標期間中の公園整備

- 公園整備については、利用者の便益の向上、施設の機能維持、環境保全などの観点から、必要性及び効率化を十分検討しつつ実施した結果、平成24年度の整備費として見積もった1,232百万円については、太陽の塔耐震改修工事の入札が不落札となった影響もあるが、競争的な契約の徹底等により431百万円となった。

### ② 随意契約の適正化

- 公園の整備業務については、緊急工事等を除いて全て競争入札で実施することとし、管理業務についても、入札することによって業務に支障が出るなどの事情がある業務以外は競争的契約の徹底に努めている。

平成 24 年度の競争的な契約の割合は、万博記念公園南側ゾーン活性化事業に伴う公正証書作成業務（手数料が全国一律であることによる競争性のない随意契約）等により、金額ベースで整備業務が 100.0%、管理業務が 99.5%であり、契約全体では 99.6%となった。

競争的な契約の割合(過去 5 年間の推移)

年 度	20 年度	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度
整備業務	100.0%	100.0%	100.0%	99.4%	100.0%
管理業務	94.5%	98.9%	99.6%	99.8%	99.5%
全 体	96.8%	99.5%	99.8%	99.6%	99.6%

※1 契約金額には、長期継続契約(電気通信、ガス供給、水道供給)は含まない。

※2 少額随意契約は含まない。

- 企画競争及び公募の手続きについては、企画競争実施委員会を 12 回開催し、30 件の案件について審査を行った。
- 随意契約については、平成 22 年 5 月に策定した「随意契約等見直し計画」において、真にやむを得ないものを除き、速やかに一般競争入札等（競争入札及び企画競争・公募をいい、競争性のない随意契約は含まない。）に移行することとしており、同計画の取り組みを継続した。

随意契約等見直し計画(平成 22 年 5 月)

項 目	平成 20 年度実績		見直し後	
	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)
競争性のある契約	(90.7%) 78	(81.6%) 1,369,845	(93.0%) 80	(95.5%) 1,602,081
競争入札	(60.5%) 52	(55.5%) 931,520	(70.9%) 61	(75.7%) 1,270,007
企画競争、公募等	(30.2%) 26	(26.1%) 438,326	(22.1%) 19	(19.8%) 332,074
競争性のない随意契約	(9.3%) 8	(18.4%) 308,012	(7.0%) 6	(4.5%) 75,776
合 計	(100%) 86	(100%) 1,677,857	(100%) 86	(100%) 1,677,857

※1 見直し後の随意契約は、真にやむを得ないもの。

※2 金額は、それぞれ四捨五入しているため合計が一致しない場合がある。

- 競争性のない随意契約に係る契約手続の運用状況等について、平成 24 年 5 月及び 11 月に開催した契約監視委員会において、平成 23 年度下半期及び平成 24 年度上半期の競争性のない随意契約、一者応札・一者応募になった案件を中心に点検が行われ、問題点として指摘される事案はなかった。

なお、インターネット利用の一般競争への移行を検討するよう意見があったが、通信事業者やコンサルティング業者等からのヒアリングにより、費用対効果等について検討を行った結果、競争によるコスト削減効果が見込めず、競争に付することが不利であると委員会において認められたことから、現行の契約形態を継続することとした。(平成 24 年度下半期分については平成 25 年 5 月 29 日に開催)

(参考) 契約監視委員会への報告件数

	平成 24 年度	
	H24. 5. 30	H24. 11. 29
開催日	H24. 5. 30	H24. 11. 29
点検対象	H23 下半期分	H24 上半期分
競争性のない随意契約	7 件	6 件
一者応札・応募	4 件	15 件
計	11 件	21 件

※ 競争性のない随意契約には、「随意契約等見直し計画」に掲げた。長期継続契約(電気通信、ガス供給、水道供給)を含む。

- 監事による平成 23 年度の監査計画において「随意契約等見直し計画の実施状況を含む入札及び契約の状況」が監査重点事項とされており、平成 23 年度の契約案件について、平成 24 年 6 月 13 日に業務監査(期末)を受けた。

その結果、「随意契約については、適正に運用されるとともに、随意契約等見直し計画も順調に推移しているものと認める。また、入札及びその他の契約は、競争性、公正性、透明性に留意しつつ、その手続きは適正に行われているものと認める。」との評価を受けた。

### ③ 公園敷地の有効活用等

- 管理区域内の未利用地については、有効活用の観点から、土地貸付等により収益の確保に一層努めることとし、これまでに社会福祉施設の用地として 4 件の定期借地権設定を締結してきたが、これによる平成 24 年度の貸付料収入は年間約 47 百万円となり、土地の有効活用を図るとともに、安定的な収益の確保に寄与した。
- また、その他未利用地に係る平成 24 年度中の新規の貸付として、次の 3 回の貸付を行い、これによる平成 24 年度の貸付料収入は年間約 0.7 百万円となった。
  - ・住宅公園用臨時駐車場用地  
(貸付期間：H24年4～5月(9日間)、H24年8月(6日間) 貸付金額：484,931円)
  - ・吹田市公共下水道事業に伴う資材等仮置用地  
(貸付期間：H24年9～10月(33日間) 貸付金額：231,904円)
  - 万博記念公園南側ゾーン活性化事業に伴い大阪府と事業用定期借地権設定契約公正証書を締結した。(貸付期間：H25年3月22日から30年間 貸付金額981,766,176円(年額・毎年改定あり))
  - ネーミングライツ売却については、現在、想定されるネーミングライツ売却代金とほぼ同額の広告掲出料を徴収しているガンバ大阪の意見などを踏まえつつ、実現の可能性について検討してきた。しかし、ガンバ大阪からは、ネーミングライツの売却先がガンバ大阪の意に反したものであれば、クラブチームの運営に支障が出るとの考えが示されているとともに、ガンバ大阪が平成 23 年度に新スタジアム建設を表明し、着工に向けて準備を進めていることから、平成 24 年度においてもガンバ大阪とのネーミングライツに関する協議は進展させることができなかった。

### (3) 基金に関する事項

- 日本万国博覧会記念基金(以下「基金」という。)の運用にあたっては、長期金利が依然として低水準で推移する厳しい運用環境の中、安全性・確実性を前提に、流動性の高い国債、地方債を中心に運用を行うとともに、フルインベストメントに努めるなど、毎月の収支の状況を踏まえながら、運用益の確保に努めた。
- 平成 24 年度中に満期償還となった 19 億円(平均利回り 1.33%)を再運用し、国債、地方債、財投機関債等を 19 億円(平均利回り 1.65%)購入した。債券の残存期間や銘柄等に配慮した結果、平成 24 年度に再運用した債券の平均利回りは 1.65%となり、平成 24 年度の全保有債券の平均利回りは 1.61%となった。

基金の運用状況

年 度	21年度	22年度	23年度	24年度
運用収入額	320百万円	314百万円	328百万円	307百万円
運用資金平均残高	18,986百万円	19,019百万円	19,059百万円	19,107百万円
平均利回り	1.69%	1.65%	1.72%	1.61%
キャッシュ保有割合	0.47%	0.48%	0.54%	0.49%

※ 運用収入額には、償却原価額、未収利息を含んでいない。

## 2. 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するための措置

### (1) 公園に関する事項

#### ① 利用者に対するサービスの向上

##### イ. ニーズの把握とニーズへの対応

- 利用者の声を広く的確に把握するため各ゲートに意見箱を設置したほか、主な四季イベント開催時や春と秋の行楽シーズンに来園者調査を行った。これらのアンケート調査を踏まえ、ニーズの的確な把握に努めたとともに、来園者からの要望・意見で早期に対応可能なものは適切な措置を行った。

##### 来園者から寄せられた意見と対応措置（主なもの）

主 な 意 見 (要 約)	対 応 状 況
女子トイレの増設・洋式便器への更新・障害者トイレの増設を要望する	今年度に整備する東の広場新設トイレに来園者の意見を反映したうえで整備することとした（女子トイレブース数の増、洋式便器の設置など）
自然文化園の目的施設に迷わずに行ける誘導サインを増設して欲しい (特に花イベント開催時)	四季イベントで公園内に常設している誘導案内サインを補足する臨時誘導サインの増設を行った
休日の多客時における自然文化園のゲートで入園券を購入する長蛇の列の解消対策を要望する（中央口・東口）	入園券の手売ブースを設置するとともに、来園者に対し入園料の事前準備（つり銭不要）を周知し待ち列の解消対策を行った

### 【アンケート調査結果】

- 春と秋の行楽シーズンに行った来園者調査結果
  - 調査項目： 来園目的・回数、情報入手方法、希望するイベントなどの状況など
  - 回収数： 1,307名
  - 実施日： 4月30日（月・祝） / 10月13日（土）
  - 調査場所： 自然文化園各ゲート（中央口、日本庭園前、東口、西口）
  - 調査結果：

<p>(前年度より向上している内容分析)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○来園者の居住地別では、万博公園の北摂近隣地域外の大阪府下よりの来園者が向上している。これは、大規模イベントの定着に加え、新聞・テレビ・雑誌等、マスメディアの取材件数が増加したことによるものと分析する。</li> <li>○万博公園への来園回数では、「2～3回」が年々増加傾向にある（平成23年度14.0%⇒平成24年度16.0%）。また、10回以上来園されている方が5.5ポイント増加した（平成23年51.8%⇒平成24年度57.3%）。これは、四季折々の花の開花に合わせて観賞者・イベント参加者のリピーターが増加したものと分析する。</li> <li>○万博記念公園の花の開花情報・イベント開催情報の主な入手源として、対前年度の伸び率が最も高かったのは、ホームページで3.2ポイント（平成23年度33.6%⇒平成24年度36.8%）であり、次いで家族・友人・知人からの口コミ情報が3.0ポイント（平成23年度12.1%⇒平成24年度15.1%）、公園だよりは1.6ポイント（平成23年度お28.7%⇒平成24年度30.3%）となり、これらは毎年向上している。これら3大情報源については、今後とも魅力ある情報発信ツールとして趣向を凝らしていくこととする。</li> </ul> <p>(初めての設問項目の分析)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○他の公園と万博記念公園との比較調査では、「花・芝生、清掃、樹木の手入れが良い」が64.1%と最も高く、次いで「四季折々の花が観賞できる」が59.9%、「大阪万博の遺産がある公園」が42.7%と万博記念公園の魅力が顕在化した。これら3大魅力を低下させることなく維持管理、発展させることで、他の公園との差異がより明確となる。</li> </ul>
--

- 四季折々のイベント調査結果
  - 調査項目： 来園地域・来園者年齢・イベント評価・最終交通手段など
  - 回収数： 延べ1,613名
  - 標本数： 12種類のイベント

➤調査場所： 各イベント会場

➤調査結果：

(前年度より向上している内容分析)

- 四季折々の花の開花に合わせたイベントに来園されている年代層では、60代から70代が年々増加傾向にある。これは、団塊世代層の観賞人口が増加しているものと考察する。
- イベント評価では、対前年度に比べ「良い」が2.6ポイント（平成23年度65.6%⇒平成24年度68.2%）伸びている。これをイベント別に見るとイルミナイト万博が最も高く、次いでチューリップフェスタ、コスモスフェスタの順で、7割強が良いとの評価を得ており、質の高いイベント展開や管理グレードの高い花園が好印象として評価されている。
- 最終交通手段としては、モノレール利用客が年々増加している（平成23年度30.6%⇒平成24年度33.9%）。これは、20代が51.4%と公共交通機関の利用割合が高いことから全体を押し上げているものと分析する。一方、自家用車の利用は毎年減少している傾向にあるが、夜間開園イベントで駐車料金を半額扱いとしている「螢の夕べ、イルミナイト万博」は、年々利用率が伸びている。

### 【平成23年度に実施したアンケート調査結果を踏まえての対応状況】

- イベント対応
  - ・「とれたて野菜の朝市」の開催希望が3割強であったことから、四季イベントの中で野菜などの販売ブースの出店を行った。また、「納涼まつり」とした花火大会、ビアガーデンの開催希望が約3割と続いていたため、イルミナイト万博夕涼みの定休日（水曜日）を弃天花火観賞会のため臨時開園を行ったほか、お祭り広場を手持ち花火体験コーナーとして一般開放した。さらには、ストリートミュージシャンによる演奏会の希求が年々高まっていることから、四季の花イベント開催時に楽器演奏会を開催した。
- 公園施設の整備
  - ・太陽の塔の内部公開中止（平成19年3月31日）以降、再公開を希求する声が多いことから、公開に向けた太陽の塔耐震・内部展示改修工事の準備を行った。
- 広報対応
  - ・新規の来園者開拓を行うための広報戦略として、引き続きラジオスポットCMによる近畿圏への情報発信を行った。
  - ・各種イベント、開花状況の主な情報入手源としては、「公園だより」「ホームページ」であり、それぞれ3割を超えた。集客を高めるための2大情報源の一つ「万博公園だより」の愛読者を増加させるため、大阪万博愛好家であり且つ芸能人でもある方に編集長として就任してもらい、毎月投稿してもらったほか、来園者による大好きな公園スポット紹介などを掲載する紙面づくりの工夫を行った。
  - また、ホームページではイベントの詳細情報、タイムリーな開花情報、来園者投稿による園内のスポット紹介「万博大好きプロジェクト」を掲載した。さらには、平成24年10月から職員が自ら日々の公園の変化をタイムリーに情報発信する「Face book」を新たに立ち上げるなど、アクセス件数の向上に努めた。

#### ホームページアクセス件数の推移

年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
件数	1,050,596件	1,112,652件	1,206,980件	1,509,380件	1,865,582件
対前年比	—	+62,056件	+94,328件	+302,400件	+356,202件
率	—	+5.9%	+8.5%	+25.1%	+23.6%

[利用者のニーズに応えるための各種イベント等の実施]

○ 四季折々の花の開花に合わせたイベント等を下表のとおり連続的に実施している。

(主なイベント等)

イベント名・開催期間	開催場所・イベント内容	入園者・利用者数等 ( )は前年度数
桜まつり 4月1日(土) ～15日(日)	ソメイヨシノの開花に合わせ、自然文化園「東大路通り」桜並木を中心に桜まつりを開催した ・会期中は18時から21時まで、ソメイヨシノのライトアップを実施したとともに、同会場で全国大陶器市を併催した ・会期中、子ども達に人気の高いフワフワバルーン遊具を設置したほか、酒造会社の新商品試飲会、グルメショップなどの出店を行った	自然文化園 221,395人 (201,709人) 対前年比+9.8% [増加理由] 本年は東日本大震災による外出自粛の影響を受けなかったことにより大幅に増じた
チューリップフェスタ 4月14日(土) ～30日(月・祝)	自然文化園「チューリップの花園」に咲く25品種約10万球のチューリップの見ごろに合わせてイベントを開催した ・会期中の休日には、ミニコンサート(4/22、29)を行ったほか、落書きハウスの設置、グルメショップの出店など行った(新規) ・レストラン「パークカフェ」ではチューリップフェスタに因んでスペシャルメニューを提供した	自然文化園 194,682人 (231,330人) 対前年比▲15.8% [減少理由] 休日(4/22)が終日雨天のため減じた
ポピーフェア 4月14日(土) ～5月6日(日)	自然文化園「花の丘」に咲く約38万本のアイスランドポピーの見ごろに合わせてイベントを開催した ・子ども達に人気の高いフワフワバルーン遊具を設置したほか、グルメショップも出店した(新規) ・園内アクセスの向上のため、会期中、ポピーフェア会場近くの西大路広場に「森のトレイン臨時停留所」を設けた	自然文化園 272,538人 (248,744人) 対前年比+9.6% [増加理由] 本年は開花が遅れたことによりゴールデンウィークの最終日まで期間設定したため増じた
ロハスフェスタ in 万博公園 4月28日(土) ～29日(日)	自然文化園「東の広場」全域を使って環境啓発イベントを開催した ・会場内に400店舗を出店したほか、広報強化としてテレビ・ラジオスポットなども行った(新規) ・家庭から発生する植物性廃食油・牛乳パックの回収を行った (廃食油548リットル・牛乳パック7200枚)	自然文化園 74,746人 (39,048人) 対前年比+91.4% [増加理由] 両日好天であったこと、関西テレビ、FM大阪によるパブリシティが奏功し大幅に増じた
FM802 FUNKY MARKET 5月3日(木・祝)	自然文化園「お祭り広場」でFM802DJや番組スタッフなど300ブースが出店するフリーマーケットを開催した	自然文化園 19,760人 (31,164人) 対前年比▲36.6% [減少理由] 悪天候により大幅に減じた

<p>こども フェスティバル</p> <p>5月4日(金・祝) ～5日(土)</p> <p>新規</p>	<p>自然文化園「東の広場」で産経新聞と共催のもと「子ども」をテーマとした健康増進、職業体験、環境啓発イベントを開催した</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然文化園の東地区でトレジャーハンティング(夢・宝探し)を行ったほか、自然素材を使った各種遊び(木材の積み木遊び、竹馬、竹細工など)も行った</li> <li>・公園で活動しているNPO団体が、資源循環型社会の形成を目指した公園づくりの事例紹介や園内の活動現場の見学・体験によるエコラリーも同時開催した</li> </ul> <p>[万博公園賑わい創出支援事業]</p>	<p>自然文化園 46,362人</p>
<p>響け! 未来へ大空へ! プラスエキスポ 2012“輝く明日”</p> <p>5月13日(日)</p>	<p>自然文化園「お祭り広場」「園内一円」を使って近畿2府4県の関西吹奏楽連盟加盟1974団体約7,000人によるブラスバンド演奏会を開催した</p> <p>[万博公園賑わい創出支援事業]</p>	<p>自然文化園 22,095人 (22,054人)</p>
<p>ローズフェスタ</p> <p>5月19日(土) ～6月17日(日)</p>	<p>自然文化園「平和のバラ園」で日本万国博覧会開催に先立ち、世界9カ国から寄贈された貴重な品種を含む84種約5,600本のバラの開花に合わせ多彩なイベントを開催した</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バラの花などをネイルやフェイスにペイントするワークショップを行った(新規)</li> <li>・「父の日(6/17)」に合わせて黄色のバラを抽選で100名にプレゼントした(新規)</li> </ul>	<p>自然文化園 145,628人 (115,375人) 対前年比+26.2% [増加理由] 新規イベントの集客効果に加え、会期中の天候が安定したことにより大幅に増じた</p>
<p>螢のタベ</p> <p>6月1日(金) ～10日(日)</p> <p>[6/6は休園]</p>	<p>日本庭園西地区流れに自生する「ゲンジボタル」、「ヘイケボタル」の観賞会(午後9時30分まで開園時間延長)を開催した</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会期中、観賞動線上にある園芸植物展示場で、カラー影絵(照明灯内蔵)12点を展示した(新規)</li> <li>・休日には縁日の露店(キャラクターすくいなど)出店を行った</li> </ul>	<p>日本庭園 27,486人 (24,430人) 対前年比+12.5% [増加理由] 新規イベントの導入・広報強化(公園だより、ラジオCM・折込チラシ)などが奏功し増じた</p>
<p>あじさい祭</p> <p>6月9日(土) ～7月1日(日)</p>	<p>自然文化園「あじさいの森、桜の流れ」で開催した</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・30品種4,000株のあじさいの開花に合わせ6/9～17の間に、あじさいを季題とした俳句を募集した(141人379句)。また、入選句は6月22日から7月1日まで、あじさいの森及び桜の流れにて紹介した(特選句10句、入選句25句の紹介)</li> <li>・会期中、会場付近で飲食売店を出店したほか、参加型の「押し花教室」も行った(6/23・30)</li> </ul>	<p>自然文化園 72,234人 (84,294人) 対前年比▲14.3% [減少理由] アジサイの開花が遅れたことにより減じた</p>
<p>早朝観蓮会 &amp;象鼻杯</p> <p>7月6日(金) ～8日(日)、 13日(金) ～16日(月・祝)</p>	<p>日本庭園「はす池」で開催した</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・26種約1,200株の花ハスの開花に合わせ、早朝6時からの開園を行った</li> <li>・国土交通省近畿地方整備局が主幹する「はなやか関西～文化首都年～2012「人形浄瑠璃」実行委員会と連携を計り、本年初の試みとして早朝に能勢人形浄瑠璃の公演を行った</li> </ul>	<p>日本庭園 (6時～9時30分) 7,797人 (6,998人) 対前年比+11.4% [増加理由] はなやか関西発行の</p>

<p>20日(金) ～22日(日)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>観蓮会に来園された方には、漏れなく「特製うちわ」をプレゼントしたほか、酒造会社よりお酒の提供を受け、象鼻杯(300名/日)とハス酒(100名/日)の試飲会を行った</li> </ul>	<p>パンフレット、北大阪急行・大阪モノレールの車内吊りポスター、同モノレール駅舎での早朝観蓮会の動画上映など各種広報が奏功し増じた</p>
<p>「イルミナイト万博」夕涼み 8月8日(水) 11日(土) ～12日(日) 18日(土) ～19日(日)</p>	<p>自然文化園「東大路通り」、「お祭り広場」、「下の広場」で開催した</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>東大路通りの桜並木を使って、約200個のミラーボール等によるアート作品を展示し、幻想的な光のページェントを演出した(新規)</li> <li>納涼まつりの雰囲気醸し出すため、ゲームコーナーやB級グルメ、世界のビールの販売など、盛り沢山の出店を行った</li> <li>8日(水)は、茨木辯天納涼花火大会が行われ、自然文化園の各所で多くの来園者が花火の鑑賞を行った</li> <li>会期に合わせ、18日(土)・19日(日)には、「ロハスフェスタ in 万博公園」を東の広場にて開催した(12時～19時会場)</li> </ul>	<p>自然文化園 (9:30～21:00) 47,343人 (58,945人) 対前年比▲19.7% [減少理由] イルミナイトの開催日数を昨年より3日減じた(8日⇒5日)ことや、会期中の各土曜日(11日・18日)にはゲリラ雷雨の襲来で減じた</p>
<p>ひまわりフェスタ 7月28日(土) ～8月19日(日)</p>	<p>自然文化園「チューリップの花園」で22品種約1万株のヒマワリの開花に合わせて開催した</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>会場近くの園路等(中央大通り[50m]、お祭り広場前[5m])に「ドライ型ミスト」を設置し、会期中、涼しげな空間を提供した(新規)</li> </ul>	<p>自然文化園 103,763人 (96,025人) 対前年比+8.1% [増加理由] 8月8日(水)休園日をイルミナイト万博夕涼みで臨時開園したことにより増じた</p>
<p>秋の万博公園無料デー 9月15日(土)</p>	<p>日本万国博覧会の閉幕日(9/13)を記念して、日本庭園・自然文化園・国立民族学博物館・大阪日本民芸館(特別展を除く)の入園・入館料を無料とした</p>	<p>自然文化園 12,809人 (15,023人) 対前年比▲14.7% [減少理由] 台風16号の影響で終日天候が不安定(13時頃から雨)であったことから減じた</p>
<p>万博へGO! with MBS ○ラジオ公開生放送・ 万博ウォークラリー2012 9月15日(土) ○ネ申ing EXPOP 9月16日(日) [新規]</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>秋の無料デーでは、大阪万博の閉幕日(9/13)に近い休日に、同博覧会の成功を後世に継承していく目的で、平成23年度より実施している。本年は、「万博からこんにちは」と題して、パビリオン跡地を巡るウォークラリーを行った。また、午後には、MBSラジオの浜村淳を始め人気の高いラジオパーソナリティによる、大阪万博の思い出話しや園内のクイズポイントとなっている施設紹介などの公開生放送を行った</li> <li>翌日(9/16)には、ライブやダンスなどの各種ステージショーを行った</li> <li>お祭り広場で15日から17日の3日間、世界の遊具や世界のスーパーカー展示、世界の動物園など</li> </ul>	<p>自然文化園 28,663人</p>

<p>○ワールドエンジ ョイパーク 9月15日(土) ～17日(月・祝) [新規]</p>	<p>を出展し、世界感の演出を行った</p>	
<p>ロハスフェスタ in万博公園 10月6日(土) ～7日(日)</p>	<p>自然文化園「東の広場」全域を使った環境啓発イベントを開催した</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・春に開催した400店舗の出店規模を実施した</li> <li>・家庭から発生する植物性廃食油・牛乳パックの回収を行った。回収した廃食油はBDF燃料に精製し、ディーゼル発電機の発電燃料として再利用した</li> </ul>	<p>自然文化園 47,260人 (56,676人) 対前年比 ▲16.6 % [減少理由] 今回は関西テレビの スポットCMを行な わなかったことから 減じた</p>
<p>コスモスフェスタ 10月13日(土) ～11月4日(日)</p>	<p>自然文化園「花の丘」で開催した</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・9品種約30万本のコスモスが花の丘一面に咲き誇る情景を楽しんでもらった</li> <li>・平日の来園者数を増加させるため、毎週金曜日に「花の球根プレゼント」の抽選会を行った</li> <li>・太陽の塔の顔出し看板の設置、着ぐるみでお出迎え、府下3市と連携したユルキャラ触れ合い体験や物産展などを行った</li> </ul>	<p>自然文化園 146,073人 (212,328人) 対前年比 ▲31.2 % [減少理由] コスモスの開花が遅 れ会期を昨年より1週 間遅らせたことによ り減じた</p>
<p>エコフェス In EXPO Park 11月3日(土) ～4日(日)</p>	<p>自然文化園「お祭り広場」「上の広場」で開催した</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お祭り広場では、企業の環境への取組のCSR展示、オイスカによる環境保全啓発活動の展示、大阪市鶴見フラワーセンターの出展とフラワーアレンジメントの園芸教室などを行った</li> <li>・上の広場では、園内で活動するNPO法人の環境啓発ブースの出展を行った</li> </ul>	<p>自然文化園 20,976人 (7,657人) 対前年比 +173.9 % [増加理由] 両日が晴天であった ことに加え、産経新聞 (朝刊・夕刊)の紙面 に多く掲載されたこ とから大幅に増じた</p>
<p>関西文化の日 (入園 ・入館無料デー) 11月17日(土) ～18日(日)</p>	<p>「関西文化の日」の趣旨に賛同し、日本庭園・自然文化園、国立民族学博物館(常設展+特別展)、大阪日本民芸館(特別展は除く)、EXPO'70パビリオン(館)の入園(館)を無料とした</p>	<p>自然文化園 44,913人 (35,720人) 対前年比 +25.7 % [増加理由] 17日は終日雨天とな り、18日も11時ごろ から雨となったが、開 園からABCラジオまつ りに多くの来場者が 訪れたことから増じ た</p>
<p>ABCラジオ まつり2012 11月18日(日)</p>	<p>自然文化園「お祭り広場」「下の広場」で開催した</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お祭り広場では10時から12時の間にラジオのよる公開生放送(道上洋三ほか出演)を行ったほか、JA各地の農産物販売ブースを設けた</li> <li>・下の広場では、「カルビーおじゃがさん収穫祭」として、小学生ダンスやクイズなど多彩なイベントを開催した</li> </ul>	<p>自然文化園 41,990人 (32,747人) 対前年比 +28.2 % [増加理由] ABCラジオでの事前告 知が奏功したことに</p>

		加え、当日は「関西文化の日」として無料デーであることが定着してきたことによる相乗効果にて増じた
紅葉まつり 11月3日(土・祝) ～12月2日(日)	日本庭園・自然文化園で開催した ・各時代ごと作庭様式を取り入れた本庭園の特徴をアピールするため、伝統芸能である能勢人形浄瑠璃の公演に加え、本年、新たに「日本庭園で能を観よう」の公演を行った(新規) ・会期中、日本庭園の茶室・茶庭の特別公開と千里庵で紅葉弁当の営業を行った ・日本庭園中央休憩所では吹田市菊花連盟による大菊などの総合花壇を展示した	自然文化園 168,194人 (163,618人) 対前年比 +2.8% [増加理由] 本年は紅葉の着色が鮮やかなうえ、会期中の関西文化の日の来園者が昨年より増えたことにより増じた
イルミナイト万博 X'mas 12月14日(金) ～16日(日)、 21日(金) ～25日(火)	自然文化園「太陽の塔」「お祭り広場」「下の広場」「東大路通り」で開催した ・昨年に引き続き、好評を博した太陽の塔を被写体とした「3Dビームペインティング」を行った ・東大路通りの桜並木に約11万球のLEDを装飾した幻想的なイルミストリートの演出を行った ・大阪モノレールと連携して、万博記念公園駅スロープの手摺にLED電球を装飾した ・お祭り広場でグルメショップの出店、子どもの遊び遊具コーナー等のサービス提供を行った	自然文化園 [16時30分以降] 71,089人 (38,343人) 対前年比 +85.4% [増加理由] 太陽の塔への3Dビームペインティングの投映模様が、各局のテレビニュース番組等で放送されたほか、新聞・雑誌・HPでも数多く掲載されたことにより大幅に増じた
2013年ニューイヤーフェスタ 1月6日(日)	自然文化園「東の広場」「上の広場」「無料団体休憩所」で開催した ・山形県の郷土料理である「芋煮」を直径2mの大鍋で1,000食分炊き出した(新規)ほか、「各地のお雑煮」出店も行った ・お正月に因んで大とんど焼き・羽子板つき・こま回し、紙飛行機作り・同飛行機の飛行コンテスト、大声コンテストなどの体験コーナーを設けたほか、和太鼓演奏も行った	自然文化園 4,208人 (5,171人) 対前年比 ▲18.6% [減少理由] 昨年のマラソン利用(1件)がなかったことから減じた
雪まつり 2月10日(日) ～11日(月・祝)	自然文化園お祭り広場で開催した ・都会の子どもたちに雪遊びを楽しんでもらった ・兵庫県宍粟市から天然雪約120㎡を搬入し雪原を作った。また、人工降雪で雪のスベリ台(4連)も設置した ・特設ステージでは、2日間子ども達に人気のあるキャラクターショーを行った	自然文化園 30,353人 (19,500人) 対前年度比 +55.7% [増加理由] 両日晴天のうえ、イベント人気の定着、テレビ放送・新聞掲載などの相乗効果により大幅に増じた
万博公園ふれあいの日 (無料デー)	・日本万国博覧会の開催日(3月15日)を記念して、自然文化園・日本庭園、EXPO'70パビリオン、国立民族学博物館、大阪日本民芸館(特別展を除く)の入園(館)料を無料とした	・自然文化園 37,278人 (16,698人) 対前年比 +123.2%

3月10日(日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ABC ラジオ番組の公開生放送や人気パーソナリティ道上洋三のトークショーなどABC ラジオスプリングフェスタ 2013 の開催に加え、ABC 万博マラソン 2013、スポーツパーク(新規)も同時開催した</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本庭園 2,207人 (1,703人)</li> </ul> 対前年比 + 29.6% [増加理由] 本年は、マラソンと同日開催したことに加え、降雨前(午前11時30分)に多数来園されたことにより、大幅に増じた
特別シンポジウム Energy of EXPO ~万国博の ちから~  3月17日(日) 新規	<ul style="list-style-type: none"> <li>開館3周年記念展「ニッポンの万国博」のプレイベントとして、国立民族学博物館講堂において、特別シンポジウムを開催した。このシンポジウムでは経済産業省博覧会推進室長(安藤保彦)の基調講演に加え、同氏と大阪府立大学21世紀科学研究機構教授(橋爪紳也)、国立民族学博物館教授(吉田憲司)によるパネルディスカッションも行った</li> </ul>	参加者数 122人
梅まつり  2月16日(土) ~3月20日(水・祝)  注)低温により開花が遅れたため、当初3/10(日)を3/20(水・祝)まで会期延長した	自然文化園梅林・日本庭園梅林で開催した <ul style="list-style-type: none"> <li>会期中、水車茶屋で梅関連商品の販売を行った</li> <li>会期中、日本庭園の茶室・茶庭の特別公開と汎庵での呈茶サービスを、また、3月10日まで千里庵で紅梅弁当の営業を行った</li> </ul>	自然文化園 152,745人 (120,908人)
“万博鉄道まつり プレイベント” 原信太郎とスーパー 一鉄道模型の世界  3月16日(土) ~24日(日) 新規	EXPO'70パビリオンホワイエにて開催した <ul style="list-style-type: none"> <li>関西在住の著名な鉄道模型愛好家である原信太郎氏による手作りの鉄道模型約30点と世界各国の鉄道写真・ビデオなどの展示を行った</li> </ul>	5,815人
万博鉄道まつり 2013  3月23日(土) ~24日(日)	自然文化園お祭り広場・上の広場・下の広場・東の広場・EXPO'70パビリオンで開催した <ul style="list-style-type: none"> <li>JR、私鉄各社が出展しミニSLやミニ新幹線、ミニ阪急電車の試乗やオリジナルグッズの販売、駅弁販売など日本最大級の鉄道まつりを行った</li> <li>電鉄各社から提供を受けた電車の中古パーツをチャリティーオークションにかけ、収益金全てを日本赤十字社大阪支部に寄付した(337,183円)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然文化園 36,426人 (34,852人)</li> </ul> 対前年比 + 4.5% [増加理由] 出展電鉄会社におけるポスターの駅貼り及び車内吊り(無料)の効果に加え、両日晴天により増じた

○ スポーツ施設における参加型の催しの実績は次表のとおり。

イベント名・開催期間	開催場所・イベント内容	入園者・利用者数等 ( ) は前年度数
2012 万博ナイター陸上競技大会 8月2日(木)	場所：万博記念競技場 主催：万博記念機構 内容：小・中学生を対象とした公認のナイター陸上競技大会	1,777人 (1,800人) 対前年比 ▲1.3%
2012 万博クロスカントリー大会 12月23日(日・祝)	場所：万博記念競技場及び自然文化園内 特設クロスカントリーコース 主催：万博記念機構 共催：ミズノ(株) 内容：10km、5km、3kmの一般、中高生、ファミリーを対象としたクロスカントリー大会	5,439人 (5,056人) 対前年比 +7.6% [増加理由] ジョギングブームを背景に参加者が増加
2013 万博長距離記録会 2月17日(日)	場所：万博記念競技場 主催：万博記念機構 主管：大阪陸上競技協会 内容：小・中・高生を対象とした長距離記録会	高校生 32人 中学生 539人 小学生 114人 合計 685人 (719人) 対前年比 ▲4.7% [増減理由] 他の大会と重なったことにより参加者が減った

#### 【民間知見の活用】

○ 自然文化園もみじ川芝生広場及び東の広場全域(平成24年度から)を使った有料の野外コンサートの事業者募集を機構ホームページにて行った(平成24年1月公示)。両広場に在阪放送局や音楽イベント会社から以下のとおり4件の提案があり、審査の結果、すべてを採択した。(会場：もみじ川芝生広場・東の広場)

開催日	コンサート名&会場	入場者数 ( ) は前年度数
7月29日(日)	FM802 MEET THE WORLD BEAT 2012	15,956人 (16,844人)
8月4日(土)	アサヒビール presents 情熱大陸 SPECIAL LIVE SUMMER TIME BONANZA' 12	18,087人 (14,918人)
9月9日(日) [新規]	コブクロフリーライブ 「FAN'S MADE LIVE」 ※東の広場	61,015人
9月22日(土・祝) [新規]	読売新聞大阪発刊60周年 谷村新司40周年特別記念コンサート	中止 8/18の長居公園ライブでの落雷死亡事故を受け、会場を室内に変更
計		95,058人 (35,677人) 対前年比+166.4% [増加理由] 本年度から東の広場を有料コンサート会場として貸出しを行ったことにより、大幅な増となった

### 【各メディアでの放映・掲載状況】

○ 四季に咲く花の見ごろやイベント、園内の生物生息状況などの情報提供を、大阪府政記者クラブ、吹田市記者クラブに以下のプレスリリースを行った。さらにタウン紙、雑誌、鉄道沿線紙の発行元にも積極的な情報提供を行うなど、幅広いパブリシティ活動に努めた。

プレスリリース回数	プレスリリース内容
45回	<p><b>【四季に咲く花】</b>            1. ソメイヨシノ開花 (2件)、3. チューリップ・ポピー開花、4. ルピナス見頃、5. カモミール見頃、6. バラ見頃、7. ハナショウブ見頃、8. 早朝観蓮会&amp;象鼻杯の開催、9. ヒマワリ咲き始め、10. コスモス開花、11. 紅葉見頃</p> <p><b>【生物多様性・生物生息】</b>            12. オオタカ抱卵、13. タンポポ調査結果、14. 銘木クロマツ緑摘み、15. 螢の発生、16. モリアオガエル産卵、17. 梅雨の生物活動、18. セミの脱け殻マップ作成、19. オオタカの巣立、20. セミの脱け殻調査結果、21. 野鳥のシンポジウム、</p> <p><b>【その他イベントなど】</b>            22. ゴールデンウィークの楽しみ方、23. 基金助成事業募集、24. 夏の花八景オープン、25. イルミナイト万博夕涼み開催、26. はやぶさ展開催・講演会 (3件)、29. ハス写真コンテスト入賞結果、30. 博覧会閉幕記念で無料開園、31. ハス果托販売、32. エコフェスタ開催、33. 「森発見」通信販売、34. イルミナイト万博 X' mas 開催 (2件)、36. 大阪万博思い出品展開催、37. 太陽の塔ペットボトルキャップアート展示、38. 公園に咲く花の写真コンテスト入賞結果、39. ニューイヤーフェスタ開催、40. 岡本太郎アートピース販 41. 雪まつり開催、42. 球技場地下空洞発見、43. 公園無料開放、44. 基金事業交付決定、45. 鉄道まつり開催</p>

○ 平成 24 年度における放映・掲載状況は以下のとおり。なお、テレビ・ラジオの放送件数は、メディア等から事前に取材申請書が提出された件数のみの累計であり、これ以外に把握できていないパブリシティの放送件数は多数ある。

メディア	平成 24 年度 放映・掲載件数	平成 23 年度 放映・掲載件数	対前年度比
新聞 (読売、朝日、毎日、産経、日経、 大阪日日 他)	214 件	216 件	▲0.9%
テレビ (NHK、朝日放送、毎日放送、 関西 TV、CATV 他)	93 件	161 件	▲42.2%
ラジオ、ミニコミ紙、雑誌、 フリーペーパー (ABC、MBS、FM802、FM851、 関西 1 週間、シティライフ 他)	344 件	436 件	▲21.1%
計	651 件	813 件	▲19.9%

### 【広域圏への情報発信】

○ 太陽の塔がテレビ朝日で全国放送されたほか、枝垂れ桜 (朝日放送 TV)・茶摘み体験 (関西 TV)、螢の夕べ (読売 TV)、ハス・サルスベリの開花 (NHK 放送局)、「行ってよかった日本の公園」ランキング 3 位に万博記念公園が選ばれる (毎日放送 TV)、イルミナイト万博 X' mas の太陽の塔への立体映像投映状況 (NHK・毎日・朝日・読売・テレビ大阪) などがテレビで近畿圏等に放送された。

○ 広域圏への情報発信により集客を高めるため、AM・FM各局で四季イベント (螢、ひまわ

- り、イルミナイト万博夕涼み・X' mas、コスモス、梅) のスポット CM を行った (20 秒 CM)。
- 万博記念公園もみじ川芝生広場で開催した野外コンサート「FM802 MEET THE WORLD BEAT 2012」がスカイパーフェクト TV で、「情熱大陸 SPECIAL LIVE 2012」が TBSTV で、東の広場で開催した「コブクロフリーライブ」がフジ TV で全国放送された。
  - 韓国・中国・台湾・東南アジアなどからの観光客誘致としたインバウンド施策として、「good Luck Trip (12 万部/回)」に日本万国博覧会及び万博記念公園の情報を掲載し、国内外に情報発信した (6 月・12 月・3 月の年 3 回発行)。

ロ 入園者数・利用件数の目標

**【年度計画に伴う公園事業の運営状況】**

- 平成 18 年 7 月に策定した「万博記念公園 将来ビジョン」に掲げた”生き生きとした人間社会の構築”における取組として、緑豊かな自然環境の中で子どもたちが自発的に参加体験できる各種イベントの開催や昆虫・植物・星座の自然観察会などを実施した。  
また、高齢化社会への対応では、公園で活動する NPO 法人と協働して、万博記念公園の森林保全のための間伐や花壇管理など、高齢者が参加体験できる多彩な活動プログラムを提供した。  
さらに、大阪大学全学教育推進機構と共同で、昨年引き続きノルディックウォーキングの普及啓発・体験講座の実施に努め、生活習慣病などの健康増進に貢献した。
- 日本万国博覧会の政府出展施設である日本庭園で、時代ごとの作庭様式を取り入れた庭で、人形浄瑠璃や能、歌曲の古典文化の公演を行った。また、同博覧会の記念館である「EXPO' 70 パビリオン」では、博覧会当時に人気を博したアメリカ館・ソ連館の宇宙展示の様子やはやぶさを紹介した“大阪万博とはやぶさ物語 (8 月 18 日～10 月 21 日)”を開催した (18,541 人)。
- 本年初の試みとして、広大な東の広場 (約 36,000 m<sup>2</sup> の芝生広場) 全域を使い、コブクロアーティストの大規模野外コンサートを実施した (61,015 人・9/9)。
- 夏季・冬季の閑散期における集客対策として、“イルミナイト万博夕涼み””イルミナイト万博 X' mas”を行った。夕涼みでは、休園日 (8 月 8 日 [水曜日]) の夜間のみ臨時開園 (16 時から 21 時) し、弁天花火大会の鑑賞会を行った (8,686 人)。また、X' mas では、昨年に引き続き太陽の塔に生命の樹や生物群、サンタクロースを題材とした立体映像を投射するイベントが、各社のメディア (特にテレビ) による掲載・放送があり、昨年に比べ約 2 倍の入園者が訪れた (平成 23 年度 38,343 人⇒平成 24 年度 71,089 人)。
- 年間の自然文化園・日本庭園の入園者数及びスポーツ施設等の利用件数の平成 23 年度実績に対する進捗状況は、次表のとおりである。  
・自然文化園・日本庭園の平成 24 年度における入園者数は間断なくイベントを実施したことに加え閑散期イベントの定着、大型イベントの誘致が奏功したことや、桜の開花が平成 25 年 3 月下旬頃に早まったことなどから、平成 23 年度に比して 197,269 人 (12.1 ポイント) の増加となった。  
・また、予約制の運動施設における利用件数は、前年度では施設の改修工事や東日本大震災の影響によるキャンセル件数の増などがあったが、今年度は、これらの要因が無くなったことに加え、休日の悪天候の日数が少なかったことから、平成 23 年度に比して 2,138 件 (19.7 ポイント) の増加となった。

区 分	平成 24 年度 (4 月～3 月) ①	平成 23 年度 (4 月～3 月) ②	差 (①-②)	増減率 (①/②)
入園者数	1,825,165 人	1,627,896 人	197,269 人	+12.1%
利用件数	13,018 件	10,880 件	2,138 件	+19.7%

○ 年度計画に対する進捗率は、次のとおりである。

区 分	平成 24 年度 (4 月～3 月) ①	年度計画 (平成 17～21 年度の平均) ②	差 (①-②)	達成率 (①/②)
入園者数	1,825,165 人	1,557,000 人 [1,298,519 人]	268,165 人 [526,646 人]	117.2% [140.6%]
利用件数	13,018 件	12,314 件 [10,885 件]	704 件 [2,133 件]	105.7% [119.6%]

[ ]内は、前中期期間の目標値（平成 14 年度実績）及びそれに対する差・達成率

## ② 環境保全への積極的な貢献

### イ 自立した森再生への取組み

《生物多様性の豊かな森づくり》

○ 『万博記念公園における「自立した森づくり」の計画』に基づき、大学・研究機関・NPO 法人等と連携を図りながら、生物多様性に富んだ森づくりの実践を、順応的管理を基本姿勢としながら進めた。

○ 自立した森再生委員会の開催

・今後の「自立した森づくり」の進め方等について意見交換

《第 13 回 自立した森再生研究委員会（平成 24 年 10 月 24 日開催）》 ・間伐施業地、草地創出、行動計画等について意見交換 ・5 委員出席
《第 14 回 自立した森再生研究委員会（平成 25 年 3 月 28 日開催）》 ・自立した森づくり管理手法、間伐施業地、密生林毎木調査について意見交換 ・5 委員出席

#### 自立した森再生研究委員会委員（50音順）

氏 名	所 属	専 攻
澤 木 昌 典	大阪大学大学院工学研究科教授	環境・エネルギー工学
菅 井 啓 之	京都ノートルダム女子大学教授	自然教育・環境教育
須 川 恒	龍谷大学講師	鳥類生態学
夏 原 由 博	名古屋大学大学院環境学研究科教授	環境生態学（動物）
森 本 幸 裕	京都学園大学バイオ環境学部 バイオ環境デザイン学科教授《委員長》	環境生態学（植物）
山 本 聡	兵庫県立大学自然・環境科学研究所准教授	緑地計画学

○ 「自然文化園自立した森づくり調査」研究を京都大学と共同で行った。また、今年度は、「ギャップ区」（巨木育成の森づくり）を 1 箇所新設した。

#### ギャップ区・間伐区開設の箇所数（自然文化園、密生林内）

年 度	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	計
間伐区	1	2	3	—	1	1	1	2	1	2	1	1	—	16
ギャップ区	4	3	1	1	1	1	—	—	1	—	1	1	1	15

※「ギャップ」：森林において台風などにより倒木が発生して生じた空間をいい、これを人工的に造るものである

○ ナラ枯れ対策

・平成 24 年 11 月時点で 46 本の木（主にコナラ）にカシノナガキクイムシが穿入し、そのうち 7 本の被害木（枯れ）を伐倒した。

・残る被害木 1 本については、全枯ではない（一部枯損）ため、幹内のカシナガの脱出防止措置を施し（幹にビニール巻き）、経過観察した。

・京都府立大学小林先生の視察対応（平成 24 年 9 月 11 日）

→「前年の対策が奏功し、被害が抑えられている」と評価された。

○ 新たな草地環境の創出

・自立した森再生研究委員会の提言、行動計画等に基づき、万葉の里近接地に新たな草地、湿地を造成し、多様な生き物が生息できる環境整備を行った。

**[生物生息環境の保全・管理]**

○ 当公園に生息する希少生物の保護増殖について、昨年度に引き続き、関係行政機関、研究会等との意見交換や専門的見地からの支援要請を行うなど、適切な管理を行った。

○ オオタカの生息（営巣）環境保全

万博記念公園オオタカ生息環境保全委員会委員（50音順）

氏名	所属
稲波 誠	吹田野鳥の会幹事
須川 恒	龍谷大学講師
高島 耕一郎	(社)大阪自然環境保全協会理事、吹田自然観察会事務局長
平 軍二	日本野鳥の会大阪支部長
森本 幸裕	京都学園大学バイオ環境学部バイオ環境デザイン学科教授 《委員長》

・立入禁止区域の設定（平成24年4月2日）、解除（平成24年8月17日）「種の保存法」第34条及び「万博記念公園施設利用規程」第5条に基づき、水鳥の池とその周辺約3.4haを立入禁止区域に設定し、侵入防止のためのロープ柵を設置した。

・モニタリング調査の実施

「万博記念公園オオタカ生息環境保全委員会」関係者の協力を得て、基本的に毎日、生息状況についてモニタリング調査を実施した。

・平成19年度から平成22年度まで4年連続で繁殖に成功。平成23年度は、オオタカが営巣を放棄したため繁殖は確認されなかったが、平成24年度は繁殖が確認され三羽が巣立った。

○ タンポポ調査の実施（4/23～4/27）

・自然文化園及び日本庭園（約130ha）を対象とした悉皆（しっかい）調査を実施

・結果概要：調査個数…26,017株

調査結果…自然再生エリア（約30ha）：47.9%（在来種率）

日本庭園エリア（約30ha）：24.3%（在来種率）

都市公園的エリア（約70ha）：4.1%（在来種率）

・結果公表：報道提供（5/17）→朝日新聞に掲載（5/27）

○ モリアオガエルの生息状況調査

・精度の高いモリアオガエルの卵塊調査（平成24年5月17日～6月22日）を前年度に引き続き実施し、109（H23：117）の卵塊を確認した。

○ 野生キジの確認

・自然文化園内において、12年ぶりにキジを確認（平成24年4月20日）

○ セミの抜け殻調査

・園内全域を対象にセミの抜け殻調査を実施した結果、生息数の順序は次のとおり。

[規模が大きい森など自然度が高い環境で生息 全体87%（H23：84%）] (①+②)

①アブラゼミ（平成22年度：72%→平成23年度：77%→平成24年度：74%）

②ニイニゼミ（平成22年度：15%→平成23年度：7%→平成24年度：13%）

[都会など自然度が低い環境で生息 全体の16%]

③クマゼミ（平成22年度：12%→平成23年度：16%→平成24年度：12%）

○ 現在、取り組んでいる「森づくり」や「動植物の調査」の状況等を、季刊誌『森発見』等で次のとおり情報発信した。

・季刊誌『森発見』掲載一覧

掲載内容	発行日
セミの抜け殻調査（自立した森の10年行動計画）	No, 26(6/15)
森林の構造はどのように変化するか（藤森隆郎氏）	
植物たちの生き残り戦略（特集）	
森の子どもたち（観察記録から）	

毎木調査（自立した森の10年行動計画）	No, 27(9/15)
森林の機能はどのように変化するか（藤森隆郎氏）	
都市公園の過去、現在、未来（特集）	
風と木の実（観察記録から）	
草地環境の再生にむけて（自立した森の10年行動計画）	No, 28(12/15)
自立した森をめざすための間伐（藤森隆郎氏）	
ファールルの眼で森を観る（特集）	
樹皮（観察記録から）	
タンポポ調査（自立した森の10年行動計画）	No. 29(3/15)
万博記念公園の森への期待（藤森隆郎氏）	
森にあそび、自然に親しむ（特集）	
木に咲く花（観察記録から）	

○ 自立した森再生事業の一層の拡充を図るため、次のとおり大学等の研究機関・NPO・ボランティア等と協働して、生物調査を実施した。

生物生息環境調査結果（平成24年度調査）

調査名 （調査機関）	調査内容	調査結果等
多様な生物相復元のためのエコアップ手法の確立 （大阪府立大学）	森林性の動物の増加とは逆に、減少傾向に歯どめのかからない草原性の動物の生息環境を創出し、園内の生物多様性の一層の向上を図るため、その方策を検討する。	わずかながら草原性の環境を保っている「生産の森・観察の森」と本園の生物多様性のコアゾーンである「水鳥の池」を結ぶライン上において、過去に造成したギャップやギンドロ林の伐開による草地環境を創出する有効性の基礎データの確保のため、植物や昆虫の調査を実施した。
園内の野生生物生息調査 （(公社)大阪自然環境保全協会）	ギャップ区・間伐区を含む野生生物調査（トンボ・チョウなど昆虫、両生類、爬虫類他）	調査回数：30回 森林性のチョウである「サトキマダラヒカゲ」、「クロヒカゲ」を確認
特定外来生物等 生息状況調査 （(公社)大阪自然環境保全協会）	生態系を乱す特定外来生物等の生息調査	調査回数：12回 ウシガエル、アメリカザリガニ、ミシシッピアカミミガメ、アゾラ、ジャンボタニシ等の確認と一部駆除
野鳥の生息調査 （吹田野鳥の会）	自然の森再生に向け、渡り鳥や留鳥等の個体数・種数等のデータの蓄積及び解析を継続調査	《春の渡り鳥調査》 調査日：4月15日～5月5日の毎日 観察種数：50種（55種） トピック：常緑樹林を好むキビタキが増加傾向 オオルリが減少傾向 《万博公園探鳥会》 調査回数：12回 観察種数：61種（61種） （ ）は昨年度種数 ※野鳥の種数については、全体としては大幅な増減は認められないが、種の内容でみると、草原性の野鳥が減少している反面、森林性の野鳥が増加している傾向が続いており、森の再生が進んでいる指標となっている。（現在、草原性の野鳥の生息空間確保について検討中）

○ 情報発信

・ブース展示

「エコフェスタ in EXPO PARK」において、万博公園の森づくりに関するパネル展示や木の実を使った体験イベント等を実施〔千里文化財団と共同実施〕（平成24年11月3、4日）

・シンポジウムの開催

「野鳥とともに暮らす街づくりを考える」～オオタカが繁殖する万博記念公園の事例を参考に～

主 催：万博記念機構、日本ビオトープ管理士会近畿支部、日本野鳥の会大阪支部

開催日等：平成24年12月2日（日）10:00～16:00

場 所： 自然観察学習館

概 要： 第1部＝バードウォッチング  
 第2部＝映像鑑賞（オオタカの子育て）  
 第3部＝パネルディスカッション

参加者数：77名（申込者数91名、当日申込12名）

・講 演

近畿森林インストラクター連絡会のメンバーに対して、本園の自立した森づくりについて 講演〔40名〕（平成24年12月9日）

・講師：機構職員 千原 裕

・雑誌記事投稿

京都通信社発行の「景観の生態史観」に、本園の自然再生に関する内容を執筆（平成24年7月30日発行）

（株）ニューサイエンス社発行の月刊誌「昆虫と自然」（1月号）に、本園の自然再生に関する記事を投稿（平成25年1月30日発行）

ロ 環境問題への対応

【剪定枝等の再利用】

○ 園内の緑地管理に伴い発生した間伐材・剪定枝・根株などは、昭和57年度から園内でチップ化・堆肥化して再利用している。

平成23年度においては、園内でチップ化してマルチング（根の保護・雑草防除などのために地表に撒くこと）材として、また、チップを更に熟成させた堆肥を花壇等の肥料として再利用したほか、一部余剰分については、堆肥、竹炭として園内で販売し、環境保全の普及啓発に努めた。

【木質バイオマス有効活用及び足湯】

○ 公園内間伐材等を利用した木質バイオマスの有効活用について、NPOからの提案事業として、小規模で簡素なバイオマス有効活用システム（スターリングエンジン使用）の構築に取り組むとともに、その仕組みと運転状況について見学会を実施した（5月～3月計11回、参加者計35名）。

○ 木質バイオマスの有効活用実験で運転しているボイラーから出る温湯を利用して、足湯の運営を行った。

足湯の月別利用者数

年度 月別	21年度		22年度		23年度		24年度		園内地産地消に関する 行事の開催状況
	利用数	稼働日	利用数	稼働日	利用数	稼働日	利用数	稼働日	
4月	3,979	25	4,353	26	4,436	26	3,896	26	タンポポ湯 4/7・8 よもぎ湯 4/21・22
5月	3,902	27	5,157	27	3,534	27	4,282	26	菖蒲湯 5/4・5、 カモミール湯 5/19・20
6月	-	-	1,121	10	1,203	10	1,291	9	ラベンダー湯 6/2・3
7月	-	-	-	-	-	-	-	-	
8月	-	-	-	-	-	-	-	-	
9月	-	-	-	-	-	-	-	-	

10月	4,682	26	3,994	27	4,612	27	4,757	26	ラベンダー湯 10/7・8 ローズマリー湯 10/20・21
11月	4,177	26	4,652	26	3,448	25	3,676	26	カリン湯 11/3・4 ひのき湯 11/17・18
12月	-	-	-	-	-	-	-	-	
1月	-	-	-	-	-	-	-	-	
2月	2,822	24	2,191	14	684	14	1,434	15	竹炭湯 2/16・17
3月	3,370	26	3,555	26	2,789	27	4,904	27	月桂樹湯 3/2・3 くすのき湯 3/16・17
計	22,932	154	25,023	156	20,706	156	24,240	155	利用者数：対前年 比17%増

### ③ 民間団体との協働による地域社会への積極的な貢献

#### 【NPO法人等との協働による資源循環型公園づくり】

○ NPO団体等との協働による“資源循環型公園づくり”の実施

・下表①の9業務をNPO法人に委託するとともに、受託団体のボランティア等に対し指導・助言を行いながら相互の連携を図り、機構との調整を行う中間支援業務を、NPO法人大阪府民循環型社会推進機構に委託した。

・また、各NPO法人等のボランティアスタッフを万博公園で育成するため、機構とNPO法人等が協働して下表②のとおり、各種養成講座を開催した。これらのNPO法人等と協働して取り組んでいる「資源循環型公園づくり」を広く市民に体験してもらうため、表③～⑤の各種イベントを開催した。

表① NPO法人等に委託した公園管理等業務

業務名	委託団体名
1 園内野生生物生息調査業務	公益社団法人 大阪自然環境保全協会
2 花園創出管理業務	NPO法人 ベスト
3 花壇管理業務	NPO法人 ベスト
4 竹林資源活用業務	NPO法人 野と森の遊び文化協会
5 環境保全型農業推進業務	NPO法人 野と森の遊び文化協会
6 日本庭園・自然文化園 水質維持業務	NPO法人 インクルージョンプログラムラボラトリ
7 循環市民の森づくり業務	NPO法人 里山倶楽部
8 温室効果ガス削減推進業務	NPO法人 インクルージョンプログラムラボラトリ
9 広報活動支援業務	NPO法人 スマイルパーク

表② 環境ボランティア養成講座

講座名	団体名	開催回数(回)	参加人数(人)
生きものかんさつ調べ	(公社)大阪自然環境保全協会	6	54
生きもの見わけ方講座	(公社)大阪自然環境保全協会	7	68
自然環境セミナー ～季節と生きものの 魅力発見～	(公社)大阪自然環境保全協会	4	50
マイスター養成講座	NPO法人 ベスト	5	92
竹仙人 養成講座(初級)	NPO法人 野と森の遊び文化協会	6	46

竹仙人 養成講座（上級）	NPO 法人 野と森の遊び文化協会	11	63
自然循環型伝承農法士養成講座（初級）	NPO 法人 野と森の遊び文化協会	6	56
自然循環型伝承農法士養成講座（上級）	NPO 法人 野と森の遊び文化協会	11	11
水質調査隊 養成講座（初級）	NPO 法人(N)インクルージョン プログラムラボラトリ	8	72
森を活かす講座 ～生命あふれる 森をつくろう～	NPO 法人 里山倶楽部	5	50
広報支援ボランティア養成講習会（花情報講習会）	NPO 法人 スマイルパーク	1	1
広報支援ボランティア養成のための講習会（植物観察会）	NPO 法人 スマイルパーク	2	31
第6期 万博循環型社会推進大会	NPO 法人 大阪府民循環型 社会推進機構	20	165
大阪 880 万人訓練 「減災技術実践体験ワークショップ」	NPO 法人 大阪府民循環型社会 推進機構 NPO 法人 野と森の遊び文化協会 NPO 法人(N)インクルージョン プログラムラボラトリ	1	42
合計		93	801

※（公社）は公益社団法人

○ 資源循環型公園づくりの体験イベントの開催

- ・NPO法人等と協働して取り組んでいる資源循環型公園づくりを一般市民にわかりやすく体験してもらうためのイベントを実施

表③

プログラム名	団体名	開催回数（来園者参加人員）
みんなで自然調べ隊	(公社)大阪 自然環境保全協会	7回 (39)
一花壇爛の作業体験会 (草花とふれあう第一歩(見学会))	(N)ベスト	27回 (66)
ツリークライミング	(N)ベスト	12回 (138)
フラワーエコプロジェクト「親子で植えようチューリップ」	(N)ベスト	2回 (94)
フラワーエコプロジェクト 「チューリップの花びらで染めるハンカチーフ」	(N)ベスト	1回 (1)
エコパークガーデンプロジェクト「花壇の花と園内堆肥を使った花の楽しみ方」	(N)ベスト	1回 (2)
エコパークガーデンプロジェクト「ハンギングバスケット作り」	(N)ベスト	2回 (3)
子ども林業体験タケノコ間伐	(N)野と森の遊び文化協会	2回 (89)
竹林保全体験(たけのこ狩り竹林保全体験と筍ランチ)	(N)野と森の遊び文化協会	2回 (143)

子ども農業体験	(N)野と森の遊び文化協会	6回 (175)
冬の農村の子どもの仕事と遊び体験教室	(N)野と森の遊び文化協会	2回 (65)
ソフトサバイバル体験	(N)野と森の遊び文化協会 (N)インクルージョン プログラムラボラトリ	1回 (915)
古農具スポレクまつり	(N)野と森の遊び文化協会 (N)インクルージョン プログラムラボラトリ	2回 (4,525)
夏休み自由研究水の生きものがし	(N)インクルージョン プログラムラボラトリ	2回 (35)
ロハスフェスタ 木工クラフト体験教室	(N)里山倶楽部	6回 (454)
空き缶コンロ製作ワークショップ	(N)里山倶楽部	1回 (24)
薪割り体験イベント	(N)里山倶楽部	1回 (150)
使用済みてんぷら油の回収イベント	(N)インクルージョンプログラムラボラトリ	7回 (8)
夏休み自由研究 空中で止まるシャボン玉	(N)インクルージョンプログラムラボラトリ	2回 (22)
新体力テスト	(N)インクルージョンプログラムラボラトリ	3回 (1,525)
キッズカメラマンイベント	(N)スマイルパーク	1回 (4)
竹林資源活用の エコツアー (5月) 水の循環活動の エコツアー (6月) 万博メモリアル エコツアー (3月)	(N)大阪府民循環型 社会推進機構	3回 (36)
計		93回 (8,513)

※ (N) は NPO 法人、(公社) は公益社団法人

- こどもフェスティバル 2012「万博エコアップラリー」において、当公園で資源循環型モデルパークづくりに取り組んでいる NPO 法人等全団体が参加し、次のような地産地消イベント等を実施した。(平成 24 年 5 月 4 日～5 日)

表④

プログラム名	団体名	参加延人数
エコアップラリーシート of 配布	(N)大阪府民循環型 社会推進機構 (中間支援)	1,967
エコアップラリーシート of 回収		(1,090)
万博公園内の自然エネルギーパネル展示と解説		471
循環型社会推進読本による啓発		11

万博公園自然のぞき見体験		768
万博公園ネイチャークイズ	(公社)大阪自然環境保全協会 (園内野生生物生息調査)	770
大阪の生き物図鑑及び動物の足跡下敷による啓発		40
チューリップの球根掘り上げ体験	(N)ベスト (花園創出管理)	587
万博エコ堆肥づくり体験	(N)ベスト (花壇管理)	295
万博エコ堆肥による啓発		30
古農具の展示	(N)野と森の遊び文化協会 (環境保全型農業推進)	959
自然循環型伝承農法のパネル展示		951
竹トンボゴルフ体験	(N)野と森の遊び文化協会 (竹林資源活用)	785
竹林資源活用のパネル展示		938
竹炭による啓発		6
地下水系保全と節水のための廃てんぷら油の回収	(N)インクルージョンプログラムラボラトリ (温室効果ガス削減推進)	3
万博バイオディーゼル燃料システムの展示と解説		432
万博R石けんの解説		432
エコノートによる啓発		240
万博公園の水で育む水生生物とのふれあい体験	(N)インクルージョンプログラムラボラトリ (水質維持)	964
万博公園水資源パネル展示		964
樹木(バイオマス)による足湯(しょうぶ湯)体験	(N)里山倶楽部 (循環市民の森づくり)	739
循環市民の森づくりパネル展示		739
足湯タオルによる啓発		30
循環型モデルパーク(エコパーク)づくりのパネル展示	(N)スマイルパーク (広報活動支援)	658
昔遊びで再利用「紙ひこうきづくり」		479
計		14,258 (H23: 8,947)

※(N)はNPO法人、(公社)は公益社団法人

○ エコフェスタ in Expo Parkにおいて、当公園で資源循環型モデルパークづくりに取り組んでいるNPO法人等全団体が参加し、次の地産地消イベント等を実施した。

(平成24年11月3日～4日)

表⑤

プログラム名	団体名	参加延人数
エコアップラリーシートの配布	(N)大阪府民循環型社会推進機構(中間支援)	1,573
エコアップラリーシートの回収		(918)
万博公園内の自然エネルギーパネル展示と解説		300
「早寝早起き朝ごはんガイド」による啓発		488

万博公園自然のぞき見体験	(公社)大阪自然環境保全協会 (園内野生生物生息調査)	372
万博公園ネイチャークイズ		366
大阪の生物ミニ図鑑・里山に関する冊子による啓発		39
チューリップの球根植え付け体験	(N)ベスト (花園創出管理)	412
万博エコ堆肥づくり体験	(N)ベスト (花壇管理)	198
万博エコ堆肥による啓発		29
古農具の展示	(N)野と森の遊び文化協会 (環境保全型農業推進)	687
自然循環型伝承農法のパネル展示		687
竹トンボゴルフ体験	(N)野と森の遊び文化協会 (竹林資源活用)	673
竹林資源活用のパネル展示		649
竹炭による啓発		21
節水・節電・低炭素のための廃てんぷら油の回収	(N)インクルージョンプログラムラボラトリ (温室効果ガス削減推進)	2
万博バイオディーゼル燃料システムの展示と解説		319
万博廃てんぷら油石けん水の解説		322
廃食てんぷら油せっけん水による啓発		63
エコノートによる啓発		160
万博公園の水で育む水生生物とのふれあい体験		(N)インクルージョンプログラムラボラトリ (水質維持)
万博公園水資源パネル展示	539	
樹木(バイオマス)による足湯(カリン湯)体験	(N)里山倶楽部 (循環市民の森づくり)	(667)
循環市民の森づくりパネル展示		667
足湯タオルによる啓発		19
循環型モデルパーク (エコパーク)づくりのパネル展示	(N)スマイルパーク (広報活動支援)	219
紙ひこうきづくり体験		237
植物の不思議 クイズでGO! 他		69
計		9,649 (H23:3,052)

※ (N) は NPO 法人、(公社) は公益社団法人

### 【健康増進の場の提供】

- INWA(国際ノルディックウォーキング連盟)・JEFA(日本ノルディックフィットネス協会)により公認された、緑豊かな自然環境の中のノルディックウォーキングコース(3k・5k・8k)を使って、当機構、大阪大学全学教育推進機構、NPO 日本ノルディックフィットネス協会、産経新聞が連携し、ノルディックウォーキングを普及させるための体験講座を行った。

【開催状況】

開催日	参加人数	実施日と当日参加数
4月	45名	45名(4/15)
5月	38名	25名(5/19)、13名(5/20)
6月	54名	15名(6/16)、39名(6/17)
9月	26名	26名(9/29)、9/30 台風襲来で中止

10月	96名	26名(10/6)、35名(10/27)、35名(10/28)
11月	128名	34名(11/3)、22名(11/17)、72名(11/23)
12月	38名	21名(12/1)、17名(12/9)
1月	48名	37名(1/19)、11名(1/20)
2月	78名	50名(2/9)、28名(2/10)
3月	37名	37名(3/9)
計	588名	※前年度は937人 (▲349人・▲37.2%)

○ 森林療法・統合医療の実践

◇統合医療の実践

・大阪大学に協力し、参加者26名(内、患者10名)で統合医療を実践(平成24年11月7日)  
[プログラム] AM:森林療法 / PM:アロマ、ヨーガ

【自然観察学習館】

○ 地域社会に貢献するため、自然観察学習館の活動として、自然観察会や森の工作教室等の体験学習を72回開催(雨天中止を除く)した。

体験学習の開催回数

年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
実績	67回	66回	65回	65回	72回

平成24年度における体験学習の開催状況

(単位:人)

	行事名	実施日	参加人数	備考
1	春の昆虫観察会	4月8日(日)	34	
2	季節の植物観察ガイド(1)	4月13日(金)	26	
3	木や竹、木の実を使った工作	4月14日(土)	中止	雨天のため
4	新緑の観察会	4月22日(日)	中止	〃
5	木や竹、木の実を使った工作	4月28日(土)	12	
6	万博お茶摘み大会	5月3日(木祝)	485	
7	季節の植物観察ガイド(2)	5月11日(金)	22	
8	万博公園にマイ巣箱をかけよう(2)	5月12日(土)	49	
9	木や竹、木の実を使った工作	5月12日(土)	18	
10	チョウの観察会	5月13日(日)	24	
11	野鳥観察会-鳥のさえずり-	5月19日(土)	29	
12	初めての植物写真講座	5月20日(日)	16	
13	木や竹、木の実を使った工作	5月26日(土)	12	
14	樹に咲く花の観察会	5月27日(日)	24	
15	月と初夏の星座観望会	6月2日(土)	46	
16	季節の植物観察ガイド(3)	6月8日(金)	19	
17	木や竹、木の実を使った工作	6月9日(土)	7	
18	トンボの観察会	6月10日(日)	26	
19	木や竹、木の実を使った工作	6月23日(土)	16	
20	梅雨のきのこの観察会	6月24日(日)	28	
21	水辺の植物の観察会	6月24日(日)	14	
22	水辺の生物観察会(ビオトープ)	7月8日(日)	47	
23	木や竹、木の実を使った工作	7月21日(土)	15	
24	セミの羽化の観察会	7月26日(木)	47	
25	万博公園にマイ巣箱をかけよう(3)	8月11日(土)	39	
26	木や竹、木の実を使った工作	8月11日(土)	70	
27	夏の星座観望会	8月11日(土)	44	
28	夏の昆虫観察会	8月12日(日)	60	
29	野鳥観察会-夏の鳥をみよう-	8月18日(土)	27	
30	木や竹、木の実を使った工作	8月18日(土)	69	

31	木や竹、木の実を使った工作	8月25日(土)	15	
32	木や竹、木の実を使った工作	9月8日(土)	9	
33	バッタの観察会	9月9日(日)	49	
34	季節の植物観察ガイド(4)	9月14日(金)	17	
35	木や竹、木の実を使った工作	9月22日(土)	49	
36	秋の野草の観察会	9月23日(日)	18	
37	秋のきのこの観察会	9月30日(日)	中止	台風のため
38	どんぐりクッキーを作ろう(1)	10月7日(日)	47	
39	季節の植物観察ガイド(5)	10月12日(金)	22	
40	どんぐりクッキーを作ろう(2)	10月13日(土)	53	
41	木や竹、木の実を使った工作	10月13日(土)	25	
42	秋の昆虫観察会	10月14日(日)	61	
43	木や竹、木の実を使った工作	10月27日(土)	57	
44	木の実、種子の観察会	10月28日(日)	中止	雨天のため
45	万博ネイチャーラリー	11月3日(日)	(延5,985)	約2,000人
46	季節の植物観察ガイド(6)	11月9日(金)	26	
47	木や竹、木の実を使った工作	11月10日(土)	33	
48	初めての草木染め	11月11日(日)	20	
49	野鳥観察会	11月17日(土)	中止	雨天のため
50	木や竹、木の実を使った工作	11月24日(土)	40	
51	紅葉の観察会	11月25日(日)	23	
52	クリスマスリース作り	12月8日(土)	58	
53	季節の植物観察ガイド(7)	12月14日(金)	24	
54	野鳥観察会－冬鳥をみよう(1)－	12月15日(土)	8	
55	ミニ門松づくり	12月15日(土)	72	
56	針葉樹の観察会	12月16日(日)	19	
57	季節の植物観察ガイド(8)	1月11日(金)	24	
58	越冬昆虫の観察会	1月13日(日)	50	
59	野鳥観察会－冬鳥をみよう(2)－	1月19日(土)	36	
60	たこ作り	1月19日(土)	30	
61	万博公園にマイ巣箱をかけよう(1)	1月26日(土)	44	
62	冬芽の観察会	1月27日(日)	12	
63	冬の野鳥観察講座	2月3日(日)	34	
64	季節の植物観察ガイド(9)	2月8日(金)	20	
65	野鳥観察会－冬鳥をみよう(3)－	2月16日(土)	30	
66	冬の星座観望会	2月16日(土)	46	
67	日本庭園の植物観察会	2月24日(日)	34	
68	季節の植物観察ガイド(10)	3月8日(金)	24	
69	野鳥観察会－冬鳥をみよう(4)－	3月16日(土)	28	
70	木や竹、木の実を使った工作	3月23日(土)	28	
71	春の野草の観察会	3月24日(日)	20	
72	野鳥観察会－冬鳥をみよう(5)－	3月30日(土)	26	
	計		2,556	

○ 自然観察学習館では、当公園内に生息する動植物の季節展示のほか、当公園の自然をテーマとした地域の写真家の作品の展示を行った。

	展 示 名	期 間	備 考
—	春の自然展（前年度からの展示）	2/9～4/9	季節展示(本館)
—	森再生への取組（前年度からの展示）	11/10～4/24	特別展示(新館)
1	野鳥展	4/12～5/21	季節展示(本館)
2	写真展「植物からのメッセージ」	4/26～6/5	特別展示(新館)

3	水と生物展	5/24 ～ 7/ 2	季節展示(本館)
4	森再生への取組	6/ 7 ～10/ 2	特別展示(新館)
5	夏の自然展	7/ 5 ～ 9/ 3	季節展示(本館)
6	初秋の自然展	9/ 6 ～10/ 1	季節展示(本館)
7	写真で見る野鳥たち	10/ 4 ～11/ 7	特別展示(新館)
8	秋の自然展	10/ 4 ～11/26	季節展示(本館)
9	森再生への取組	11/ 8 ～3/31	特別展示(新館)
10	冬の自然展	11/29 ～ 2/ 4	季節展示(本館)

### 【学校等への教育の場の提供】

- 自然観察学習館や学習プログラムのPRを行うなど、当公園の利用促進を働きかけた結果、「生活科・総合的な学習の時間」として学習館を使用した学校数等は、次表のとおりとなった。  
 なお、受入れに当たっては、学習館の運営に協力するボランティア団体「ソラードの会」の協力を得て実施した。

年度別実績一覧表

年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
学校数	37校	30校	33校	41校	43校
延べ人数	3,527人	2,947人	3,381人	3,991人	3,623人

- 高槻市の小中学校教員の生活科研修会「遠足が変わる（自然文化園でこんなこともできるのか！）」を高槻市教育センターと共同で実施した。当該研修では、学習館ボランティア団体の協力のもと、学習館で木工実習及び自然観察学習プログラムを利用したフィールドワーク等の指導を行った。（平成24年8月20日、参加教員35名）
- 吹田市の小中学校初任者教職員等の環境教育現地研修会「自然観察・環境学習フィールドワーク」を吹田市教育センターと共同で実施した。当該研修では、機構職員がボランティア団体やNPOと協力して「自立した森づくり」や「緑の循環システム」の取組み状況の説明及び現地案内、学習館で木工実習及び自然観察学習プログラムを利用したフィールドワーク等の指導を行った。（平成24年8月22日、参加教職員90名）

### 【その他の地域社会への積極的な貢献】

- 地域社会へ積極的に貢献するため、NPO法人等と協働して、次の活動を行った。

活動内容	団体名	実施日等	参加延人数
障害者等を対象とした就労体験支援 （竹林保全等（筍の間伐・販売・竹炭の商品化等） ・社会福祉法人さつき福祉会	(N)野と森の遊び文化協会	15回	103
障害者等を対象とした就労体験支援 （廃てんぶら油受渡・アルカリ石けん水の製品化等） ・社会福祉法人さつき福祉会	(N)インクルージョンプログラムボラトリ	22回	54
障害者等を対象とした就労体験支援 （事務所等清掃） ・社会福祉法人さつき福祉会 ・吹田市立障害者支援交流センター（あいほうぶ）	(N)大阪府民循環型社会推進機構 (N)野と森の遊び文化協会 (N)インクルージョンプログラムボラトリ	34回	237
障害者等を対象とした環境保全活動体験支援（筍の間伐・収穫体験等） ・社会福祉法人さつき福祉会 ・吹田市立障害者支援交流センター（あいほうぶ）	(N)野と森の遊び文化協会	11回	152

障害者等を対象とした就労体験支援 (各種イベントの運営等) ・社会福祉法人さつき福祉会	(N)大阪府民循環型 社会推進機構	4回	32
障害者等を対象とした就労体験支援 (各種イベントの運営等) ・社会福祉法人さつき福祉会	(N)野と森の遊び 文化協会	4回	34
障害者等を対象とした就労体験支援 (各種イベントの運営等) ・社会福祉法人さつき福祉会	(N)インクルージョン プログラムラボラトリ	11回	54
大阪 880 万人訓練 「減災技術実践体験ワークショップ」 ・社会福祉法人さつき福祉会	(N)大阪府民循環型 社会推進機構 (N)野と森の遊び 文化協会	1回	23
山田高校との連携による豪州修学旅行 団を対象とした環境保全活動体験支援	(N)野と森の遊び 文化協会	1回	22
生活保護受給者等(未就労者)を対象 とした就労体験支援((有限責任事業組 合大阪職業教育協働機構)大阪市職場 チャレンジ事業) ・大阪地域職業訓練センター (A'ワーク創造館)	(N)大阪府民循環型 社会推進機構 (N)野と森の遊び 文化協会 (N)インクルージョン プログラムラボラトリ	22回	22
セミの脱け殻調査の協力 ・吹田市立片山中学校	(公社)大阪自然環境 保全協会	1回	14
小学生を対象とした見学会 (校外学習支援) ・茨木市立沢池小学校	(N)ベスト	1回	9
ボランティアで作る花壇の見学会 ・神戸総合運動公園	(N)ベスト	1回	40

※ (N) は NPO 法人、(公社) は公益社団法人

### 【地域の防災等に関する施策への貢献】

○ 「大阪府地域防災計画」に基づく「北部広域防災拠点」に係る備蓄倉庫用地の貸付や、大規模災害発生時における「後方支援活動拠点」としての用地使用承認を行っているほか、近隣自治体の広域避難場所や大阪府ドクターヘリの離発着場等としても公園を提供し、地方自治体の防災行政・救急医療に積極的に協力している。

#### 広域防災拠点・避難場所の提供一覧

地方公共団体等	指定内容	使用場所	承認時期
大阪府	陸上輸送基地・後方支援活動拠点	スポーツ広場 南第1・2駐車場	平成7年12月
	北部広域防災拠点の臨時ヘリポート及び活動の場	東駐車場 万博記念競技場	平成14年8月
	国民保護避難施設(武力攻撃事態等における近隣市の避難場所)	公園全体	平成19年3月
	ドクターヘリの緊急離着陸場	東の広場・運動場 南第1駐車場	平成20年1月
吹田市	広域避難場所	公園全体	昭和57年1月
吹田市消防本部	ヘリコプター臨時離着陸場	東の広場	昭和55年
茨木市	広域避難地	公園全体	昭和55年10月
大阪府下消防長会	消防応援隊集結場所	駐車場	平成8年

○ 長年、大阪府警の訓練等に当公園施設を提供してきたことに対して、平成24年5月30日付けで大阪府警本部から感謝状が贈呈された。

## 【地方公共団体等の防災活動への貢献】

- 地方公共団体等の防災活動等に次のとおり公園施設を提供した。

実施日	実施者	内 容	提供施設
7月25日	吹田市消防本部	消防ヘリコプターと陸上部隊の連携訓練(18名参加)	自然文化園 東の広場
8月22日		同上(20名参加)	
10月24日 10月31日		水難救助訓練(潜水訓練、両日とも12名参加)	自然文化園夢の池

## 【緊急の救急搬送・医療救護活動へ積極的貢献】

- ドクターヘリや患者緊急輸送ヘリの着陸地として次のとおり公園施設を提供した。

なお、着陸時には職員や警備員が付近の来園者に場所移動を要請し、連絡調整は、吹田市消防本部を窓口として実施されている。

実施日	出発地点	患者送り先	内 容	提供施設
5月22日	愛知県	国立循環器病センター	患者緊急輸送	東の広場
6月20日	広島県			
7月10日	高知県			
7月25日	島根県			
8月7日	兵庫県			
12月11日	長野県	阪大病院	患者緊急輸送	東の広場
1月9日	高知県	国立循環器病センター		
1月28日	兵庫県	済生会千里病院		

- 24年2月に改定した機構の「消防計画」に基づき、大規模災害が発生した際に、機構役職員が自ら避難誘導・初期消火・応急救護等の初期対応(自衛消防活動)を行うための「自衛消防組織」を編成している。

この自衛消防組織を有効に機能させ、各自が自衛消防活動における任務を理解し、迅速かつ適切に対応できるよう、定期的に訓練を実施しており、24年度は2月15日に記念ビルで消防防災訓練を実施した。

訓練には消防署員立会いのもと、全役職員が参加するとともに、警備員や各テナントにも参加を要請し、実施後は次回の訓練に活かせるよう、防火防災管理者以下、自衛消防組織の各班長等で反省会を開催し、課題等について検討した。

今後も、各種訓練や研修・講習会の実施等により、防災・減災意識の向上、危機管理・危機対応のレベルアップを図ることとしている。

## (2) 基金に関する事項

### ① 効果的な助成金の交付

- 助成対象の重点化

基金事業では、日本万国博覧会の成功を記念するにふさわしい文化的活動又は国際相互理解の促進に資する活動に対し助成金を交付している。

平成24年度においても、当機構の第2期中期計画に基づいて、国内外の助成について、環境・公園に関連する事業へ重点化し、このうち公園に重点化する事業として「万博公園賑わい創出支援事業」(後述)を実施した。

- 助成成果の社会への発信等の積極的評価

「市民公開講座の開催」など、助成成果の社会への発信、貢献に努めている事業を積極的に評価するため、平成23年度に引き続き、このような発信等を行うことが審査の評価項目の一つであることを募集要項に明記し、事業者に認知させた。

- 平成25年度一般助成事業

- ・受付期間 平成24年8月31日～10月1日

- ・申請件数 126件 うち「環境に関連する事業」 38件

・申請金額 462,968 千円 うち「環境に関連する事業」 155,715 千円

一般助成事業の状況

(単位:千円)

事業年度	申 請		交付決定		採択割合 % (申請全体)		重点事項の採択 割合 % (交付決定/申請)	
	件数(a)	金額(b)	件数(c)	金額(d)	件数 (c/a)	金額 (d/b)	件数 (c/a)	金額 (d/b)
16	198 (35)	1,024,572 (129,415)	108 (28)	282,525 (68,000)	54.5	27.6	80.0	52.5
17	189 (29)	1,062,793 (119,664)	73 (15)	245,500 (36,198)	38.6	23.1	51.7	30.2
18	252 (70)	1,050,746 (214,000)	92 (28)	205,000 (57,000)	36.5	19.5	40.0	26.6
19	192 (68)	900,576 (267,635)	75 (50)	172,000 (102,500)	39.1	19.1	73.5	38.3
20	161 (93)	740,373 (348,248)	77 (55)	173,500 (118,700)	47.8	23.4	59.1	34.1
21	127 (72)	569,838 (290,845)	61 (41)	143,700 (97,000)	48.0	25.2	56.9	33.4
22	156 (74)	775,619 (427,134)	55 (33)	141,700 (93,300)	35.3	18.3	44.6	21.8
23	143 (61)	472,190 (237,654)	49 (29)	124,100 (74,400)	34.3	26.3	47.5	31.3
24	140 (41)	460,137 (140,007)	52 (21)	118,000 (50,300)	37.1	25.6	51.2	35.9
25	126 (38)	462,968 (155,715)	48 (26)	124,900 (51,100)	38.1	27.0	68.4	32.8
合計	1,684 (581)	7,519,852(2,330,317)	690 (326)	1,730,925 (748,498)	41.0	23.0	56.1	32.1

※ 各事業年度の数値は当初交付決定時のもの。( )の数字は内数で、助成重点事項に該当する数値

※ 事業年度は、助成事業の実施年度をいう。(以下の表について同じ。)

○ 万博公園賑わい創出支援事業

イ 公園事業と基金事業との連携

平成 18 年度助成事業から、「万博公園賑わい創出支援事業」を創設し、公園事業と基金事業との連携をより深め、相乗効果を発揮している。

平成 24 年度は、「日本万国博覧会 EXPO' 70 パビリオン特別展」や、「北欧の音楽ピクニック 2012」等に対して助成を行った。

ロ 平成 24 年度万博公園賑わい創出支援事業の追加募集

平成 24 年度万博公園賑わい創出支援事業 (予算額: 5,000 万円) については、第 22 回基金事業審査会の審査の結果、採択金額が 3,890 万円となったことから、効果的な助成を行うため、残額 1,100 万円につき、追加募集を行った。

・受付期間 平成 24 年 5 月 1 日～31 日

・助成対象期間 平成 24 年 9 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日

申請及び交付決定の件数・金額は次のとおり。

	申 請	交付決定
件 数	9 件	4 件
金 額	21,445 千円	9,400 千円

ハ 平成 25 年度万博公園賑わい創出支援事業

・受付期間 平成 24 年 8 月 31 日～10 月 1 日

・申請件数 21 件

・申請金額 56,312 千円

万博公園賑わい創出支援事業の状況

(単位:千円)

事業年度	申 請		交付決定		採択割合% (申請全体)	
	件数(a)	金額(b)	件数(c)	金額(d)	件数(c/a)	金額(d/b)
18	11	13,388	11	13,357	100.0	99.8
19	16	54,751	15	50,197	93.8	91.7
20	13	50,886	13	48,506	100.0	95.3
21	27	88,467	19	43,691	70.4	49.4
22	24	77,438	21	50,000	87.5	64.6
23	28	84,744	18	50,000	64.3	59.0
24	33	83,871	19	48,300	57.6	57.6
25	21	56,312	18	50,000	85.7	88.8
合計	173	509,857	134	354,051	77.5	69.4

○ 補欠事業

交付決定後の辞退等により生じる財源の有効活用を図るため、平成 17 年度事業から「補欠事業制度」を創設している。これにより、平成 24 年度は補欠事業として 9 件(助成額 14,000 千円)選定したうちの 5 件(助成額 9,200 千円)を追加採択した。また、平成 25 年度は補欠事業として 17 件(助成額 33,000 千円)を選定した。

平成 24 年度助成金 補欠繰上げ交付決定状況

(単位：千円)

事業区分	当初選定		追加採択	
	件数	金額	件数	金額
国際相互理解の促進に資する活動	6	10,800	3	7,300
国際文化交流、国際親善に寄与する活動	4	8,200	2	5,400
学術、教育、社会福祉、医療及び保健衛生に関する国際的な活動	2	2,600	1	1,900
自然の保護その他人間環境の保全に関する国際的な活動	0	0	0	0
博覧会の成功を記念するにふさわしい文化的活動	3	2,900	2	1,900
日本の伝統文化の伝承及び振興活動	0	0	0	0
芸術及び地域文化に関する活動	3	2,900	2	1,900
合計	9	13,700	5	9,200

② 助成対象事業についての事後評価の実施

○ 事後評価の概要

個々の助成事業が、当初計画どおりの確かつ効果的に実施されたか、また計画を超える事業成果、波及効果があったかを幅広い観点から確認・検証し、必要に応じて基金事業の改善にフィードバックしていくこと及び事後評価結果の公表を通じて機構としての説明責任を果たしていくため、事後評価を実施している。

(実施要綱)

- ① 対象：すべての助成事業
- ② 評価時期：完了実績報告書(助成事業の実施内容及び成果に関する報告書)の提出後に行う。
- ③ 評価項目：事業の総括、事業の実施状況、参加者等の意見の把握、支出の適正性、広報計画の実施状況
- ④ 評価方法：完了実績報告書及び機構自らが実地調査した結果に基づいて、上記評価項目について、5段階による採点を行い、これを集計したものを総合評価とする。

○ 平成 23 年度助成事業の評価結果(評価対象事業：65 件)

平成 23 年度助成事業の評価結果を以下のとおり、とりまとめた。

評価結果	件数
期待水準を超えて極めて良好な事業	1 件
期待水準を超えて良好な事業	5 件
期待水準を十分満たした事業	42 件
期待水準に比べてやや順調でないと考えられる事業	17 件
期待水準に比べて順調でないと考えられる事業	0 件

・評価結果の分析

期待水準に達していない事業が 17 件となった。

(理由)17 件中、①(当初の計画と比べ)参加者数等の減少 11 件、②客観的で納得のいく事業検証及び総括がなされていない 7 件、③万博表示の減少 1 件(2 件は①、②重複)

【評価が得られた内容】

- ・事業検証及び総括が適切になされており、今後の課題、方向性等が明確にされている。
- ・市民公開講座の開催などを通じ、事業の成果を積極的に社会に発信している。
- ・申請時の計画と比べ、「万博表示」の媒体の種類、作成数が増加している。

【評価が得られなかった内容】

- ・事業実施による問題点や課題を検証していない。
- ・環境についての成果が具体的に記載されていない。
- ・申請時の計画と比べ、参加者数等が減少している。

※ 「参加者数・入場者数」、「万博表示」の減少については、平成 24 年度助成事業から、完了実績報告書にその理由を明記できるよう様式を改めた。

また、印刷物等に万博表示を行うことを計画していたにもかかわらず、正当な理由なく万博表示を行わなかった場合は、当該印刷物等に係る経費を助成対象外として助成金を減額している。

○ 評価結果の反映

平成 25 年度助成事業の募集要項に、これまでに事後評価がなされた事業者からの申請については、その評価結果を審査に活用することを引き続き明記した。

平成 25 年度助成事業の審査にあたり、平成 19 年度から平成 24 年度に事後評価がなされた助成事業者からの申請については、その評価結果を審査資料に記載し、基金事業審査会の審査に活用した（活用件数：28 件）。

事業者の事業の質の向上の一助となるよう、各々の評価結果を平成 23 年度助成事業から通知しているが、平成 24 年度助成事業からは、評価結果通知の際、評価区分 5 段階のうち、評価結果がどの段階にあるかを通知することとした。

○ 評価結果の公表

平成 22 年度助成事業について実施した事後評価の結果及び分析結果をホームページに掲載した。また評価の高い事業を周知することで、他の事業者の参考となるよう、その概要（2 件）も併せて掲載した。

また、平成 23 年度助成事業から、完了実績報告書に記載された「事業実施により実現できた具体的な成果・効果」を当機構ホームページで公表することとしており、平成 24 年度も引き続き公表を行っている。

○ 募集要項への明記

事後評価の趣旨について、事業者により理解してもらえるよう、平成 25 年度事業の募集要項から、記載を工夫するなど、周知徹底を図った。

### ③ 助成金の交付にかかる選考手続き等における客観性及び透明性の確保

#### 《基金事業審査会》

○ 基金事業審査会の概要

助成金交付事業の適正な運営及び助成事業の公正な選考を行うため、基金事業審査会を設置し、その下に助成分野にかかる事業をさらに専門的な見地から審査する専門部会を設置している。審査会は、専門部会における審査結果を踏まえ、総合調整を行った上で採択案をまとめ、機構に答申する（委員については、別紙 1 のとおり）。

また、助成重点事項、採択基準、助成金の交付に関する重要事項について意見を述べる。

○ 委員の選定方針

基金事業審査会の委員の選定については、審査会の運営方法をより明確化するため、国の「審議会等の運営に関する指針」を参考に制定した「基金事業審査会委員選定に関する指針」（平成 18 年 10 月 1 日実施）において、委員の任期（2 期 4 年まで）、女性委員の比率（30%以上）などを規定している。

○ 平成 24 年度万博公園賑わい創出支援事業追加募集の審査

イ 専門部会での審査

申請された事業について、専門的な見地から審査するため、国際相互理解・文化活動部会に審査を依頼した（平成 24 年 6 月 14 日）。審査結果は下記のとおりである。

#### 【専門部会審査状況】

部会名	開催日	申 請		採 択	
		件数	金額	件数	金額
国際相互理解・文化活動部会	7/3	9 件	21,445 千円	4 件	9,400 千円

ロ 第 23 回基金事業審査会の開催（7 月 17 日）

本案件の部会審査の結果を踏まえ、平成 24 年 7 月 27 日付けで交付決定を行った。

○ 平成 25 年度助成金交付事業の審査

イ 専門部会での審査

申請された事業を専門的な見地から審査するため、一般助成事業の審査を基金事業審査会

専門部会に依頼した。

また、万博公園賑わい創出支援事業については、国際相互理解・文化活動部会に審査を依頼した。

専門部会審査状況

(単位：千円)

部会名	開催日	事業	申請 件数	申請額	審査 件数	精査後 限度額	採択 件数	採択金額
環境第1部会	12/12	環境事業	19	76,794	18	47,700	13	25,000
		環境以外の事業	29	99,422	25	79,100	8	31,500
環境第2部会	12/13	環境事業	19	78,921	17	47,700	13	26,100
		環境以外の事業	30	104,459	25	79,000	5	15,500
国際相互理解 ・文化活動部会	12/20	環境以外の事業	29	103,372	24	79,100	9	26,800
		賑わい創出支援事業	21	56,312	20	53,000	18	50,000

ロ 第24回基金事業審査会(平成25年2月5日開催)

平成25年度助成事業の選考にかかる各専門部会からの報告を踏まえ、審査会において助成事業の選考に係る答申がなされた。また、基金事業全般について意見聴取を行った。

平成25年度助成金交付決定状況

(単位：千円)

事業区分	一般助成事業				賑わい創出 支援事業		合計		補欠選定	
	環境関係		環境以外		件数	金額	件数	金額	件数	金額
	件数	金額	件数	金額						
国際相互理解の促進に 資する活動	25	50,300	20	71,800	13	36,200	58	158,300	13	29,200
国際文化交流、国際親 善に寄与する活動	2	3,200	9	41,800	4	15,000	15	60,000	5	12,900
学術、教育、社会福祉、 医療及び保健衛生に 関する国際的な活動	19	37,600	11	30,000	5	13,400	35	81,000	8	16,300
自然の保護その他人 間環境の保全に関す る国際的な活動	4	9,500	0	0	4	7,800	8	17,300	0	0
文化的活動	1	800	2	2,000	5	13,800	8	16,600	4	3,800
日本の伝統文化の伝 承及び振興活動	0	0	0	0	3	4,400	3	4,400	1	800
芸術及び地域文化に 関する活動	1	800	2	2,000	2	9,400	5	12,200	3	3,000
合計	26	51,100	22	73,800	18	50,000	66	174,900	17	33,000

なお、交付決定した個々の事業については、別紙2のとおりである。

《申請者の利便性の向上》

申請者の利便性の向上を図るため、以下の事項を行った。

○ 平成25年度助成事業の申請手続き等助成金の交付に関する情報の公開

①官報掲載(平成24年6月29日)

②募集要項、申請書及び採択基準を機構ホームページに掲載(6月29日)

③報道機関への資料提供(6月28日)

大阪府政記者クラブ、吹田市記者クラブ等に提供

④関係団体への周知依頼(7月11日)

募集情報の更なる周知を図るため、合計958団体に対して、募集案内及び基金事業の周知依頼を行った。(前年度：876団体)

上記の周知依頼先に機構ホームページとのリンク設定を依頼した(7月11日)。

⑤全国紙への広告掲載(8月31日)

募集情報を全国に周知するため、日本経済新聞に募集広告を掲載した。

⑥基金事業ニュース「万博基金REPORT」の作成・送付等(平成24年8月・平成25年3月)

基金事業のこれまでの助成実績、募集情報、交付決定状況、特色ある助成事業等を掲載した広報誌を作成し、関係省庁・地方自治体、大学、学会、NPO 法人等に送付するとともに万博公園近隣の駅構内（12箇所）や公園内に配置した（各月2,000部ずつ作成）。

⑦リスティング広告

検索サイト（ヤフージャパン）において、検索に使用したワード（助成など）に反応して募集情報を表示するリスティング広告を平成24年度からの取組みとして実施した（8月28日～）。その結果、インプレッション（広告掲載回数）は18,964回、クリック数は133回であった。

○ 助成金の交付状況等の公開

申請に際して事業者の参考となるよう、助成金の交付決定状況、交付先団体名、交付金額等を機構ホームページに公開した。また、基金事業審査会及び専門部会の委員名簿及び審査会の議事要旨も同じく公開した。

○ 平成25年度募集に係る説明会の開催

①平成25年度助成事業申請予定者を対象に、募集要項の内容や申請のポイントなどを説明するため、前年度に引き続き募集説明会を開催した。

【開催状況】

イ 日 時：平成24年9月5日 午後2時～3時

参加人数：4団体 6名

ロ 日 時：平成24年9月7日 午後2時～3時

参加人数：4団体 7名

②環境関係団体等への説明会

上記①とは別に、環境問題に取り組むNPO及び大阪府内の市町村を対象にした環境セミナーにおいて、助成事業の募集について説明を行うとともに基金事業のPRを行った。あわせて、地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所のHPに助成事業の募集情報を掲載した。

○ 国内事業の実地調査

「環境・公園」に関係する事業を中心に、事業形態、事業実施地域等を考慮の上、助成事業の成果等の確認や助成事業者の要望や意見を把握するため、27件の事業について実地調査を行った。

この調査では、助成金の使途の妥当性、助成事業の成果、看板・ポスターなどへの万博基金からの助成であることの明示状況等の確認を行った。あわせて、基金事業の今後の改善の参考とするため、要望や意見を聴取した。

また、助成事業者に対しても、当該事業が万博基金の助成を受けて実施されていることを社会に発信していただくよう働きかけ、理解を求めた。

なお調査の実施状況等については、下表のとおりである。

事業名	調査実施日	参加者数等	事業の実施状況
第5回ジオパーク国際ユネスコ会議（環境）	5月12日	参加者 593人	・周辺の主要な駅、港に横断幕やのぼりを設置し、大会を盛り上げていた。 ・参加者数については、当初計画どおり ・万博表示については、当初計画に大会プログラム等を追加
理科実験野外教室（賑わい）	5月27日	参加者数 約3,000人	・各実験実施会場は、にぎわっていた。参加者のほとんどが親子。子どもたちは、先生の説明を熱心に聞いており、実験結果に歓声をあげていた。 ・参加者数については、当初計画どおり ・万博表示については、当初計画どおり実施
とやま世界こども舞台芸術祭2012	7月31日	参加者数（観客） 約16,000人	・海外からの参加者も多く参加する中、子どもたちが友好や絆をテーマとした舞台演劇を演ずることで、交流が行われていた。 ・参加者については、当初計画よりも増加 ・万博表示については、当初計画どおり実施

○ 国外事業者の現地調査

助成事業者の取得財産の活用状況、事業の成果等を把握するため、松風館ファンデーションに対し、助成を行った次の事業について調査を実施した。

事業者名	事業名	実施日	調査の実施状況
松風館 ファンデーション	オランダ王国・港湾都市ロッテルダム市における純日本式茶室建設事業	平成25年 3月3日	<ul style="list-style-type: none"> <li>純日本式茶室は欧州内において貴重なものであり、文化体験等を通して、国際相互理解に寄与することが大いに期待されることが確認された。</li> <li>日本人専門職人と現地との相互協力により茶室建設事業は実現し、日蘭両国における人的交流に貢献できた。</li> <li>万博表示については、ホールの壁等にも万博基金の助成によるものであることを表示している。</li> </ul>

《万博表示の実施及び基金事業の社会への普及・浸透等》

○ 万博表示

当基金の意義を広く認知してもらうため、平成25年度募集にあたっては、従来どおり万博表示の徹底を図った。

【表示例】



**助成 独立行政法人日本万国博覧会記念機構**

Supported by the Commemorative Organization for the Japan World Exposition(70).

この助成金は、日本万国博覧会の収益を基にしています。

○ 基金事業の社会への浸透

基金事業を紹介するリーフレットを2,000部作成し、市民公開講座、公演・展示や国際会議などの事業者会場等での配付を求め、基金事業の社会への浸透を図った。さらに、海外において基金事業の周知を図るため、英語版リーフレットを1,000部作成し、海外からの参加者が見込まれる国際会議の会場等での配付を依頼した。

○ ホームページへの事業の掲載

当機構のホームページに、万博基金助成にふさわしい事業や事後評価で評価の高かった事業のほか、一般市民が参加する「市民公開講座」や一般市民の入場が可能な「公演・展示会」の情報などを掲載し、併せて事業者の広報活動を支援した。

④ 民間の知見の活用

○ 平成25年度助成事業者へのアンケート調査の実施

基金事業の改善のため申請者のニーズを把握することを目的に、国外事業者を除く、平成25年度助成事業に申請した団体(130団体)に対して、交付決定通知と併せて万博基金事業についてのアンケート用紙を同封し、調査を実施した(平成25年2月26日送付)。

この調査結果(回答 52団体)を踏まえ、今後の広報のあり方を検討した。

質問項目	回 答
基金事業の広報について	ご存知の(ご覧になったことがある)媒体 (回答数) ・当機構HP (48) ・官報 (1) ・基金レポート、リーフレット(13) ・募集説明会 (4) ・日本経済新聞広告 (4) ・メルマガ (2) ・リスティング広告 (1) ・官報 (1)
日本経済新聞への募集情報掲載について	○このままでよい (31) ○その他【主な回答】 ・他の新聞・HPにも掲載(四大紙、地方紙等) ・ネット情報で十分

助成事業（補助事業）の情報収集先について （他の助成金も含む）	【主な回答】 ・インターネット(40)・所属機関、団体等からの紹介(4) ・メールマガジン(3)・知人の紹介(2)
多くの助成団体が登録されているサイトについて	・TAM（トヨタ・アートマネジメント講座）(7) ・CANPAN（日本財団主宰の情報サイト）(4) ・NPOWEB（シーズ、メルマガ）(4) ・きんき環境館メールマガジン(3) ・メルマガ「NPOぼいす」(3)・(財)助成財団センター ・芸術文化助成金情報・助成金ネット・新潟NPO情報ネット ・fringe（小劇場演劇の制作者支援サイト）
助成募集情報等をインターネット検索する際の、検索キーワードについて	【主な回答】 ・助成金(29)・助成(10)・補助金(5)・基金(4) ・NPO(3)・財団(2)・芸術(2)・学会(2)
基金事業のリスティング広告について	・知らなかった(46) ・見たことがあるが、他の媒体で既に募集を知っていた。(4) ・リスティング広告で、基金事業の募集をはじめて知った。(1)
募集説明会の場所について	・大阪がよい(27) ・東京がよい（東京でも実施すべき）(21) ・東北の被災県にても実施すべき(3)
募集説明会を東京で実施している助成団体について	・福祉医療機構(WAM)(4)・国立青少年教育振興機構(4) ・文化庁(2)・日本芸術文化振興会

### (3) 公園事業への繰入れの拡大

平成24年度は、公園の施設整備（夏のみどころ創出工事他）のため、基金の運用益から50,000千円の公園事業への繰入れを行った。

また、平成25年度予算でも、公園事業への繰入れとして50,000千円計上している。

### (4) 基金の運用及び管理における客観性及び透明性の確保

#### ① 基金の管理・運用

日本万国博覧会記念基金の管理及び運用を適正に行うとともに、責任体制を明確にするため、平成24年4月18日に開催した役員及び幹部職員による「債券運用会議」において、平成24年度における債券運用方針を決定した。

#### 【債券運用会議の構成】

役員(理事長・理事・監事)、総務・事業部長、総務・経理課長

※事務局：基金課

#### ○ 平成24年度運用方針

平成24年度における基金及び余裕金の運用にあたっては、「日本万国博覧会記念基金及び余裕金運用規程」に基づくほか、下記の方針により実施するものとする。

#### 1 目標

- (1) 予算計上額を上回る運用収入を基金、余裕金それぞれ確保するよう努める。
- (2) キャッシュ(銀行預金を含む)保有割合は、可能な限り小さくすることとし、基金、余裕金それぞれ平成23年度水準を維持するよう努める。

#### 2 運用方針

- (1) 安全性、確実性を前提に、市場流動性の高い債券を中心とした運用を行う。
- (2) 各償還年度の平準化を図るため、ラダー型ポートフォリオの構築に努める。

- (3) 金利等の運用環境の変化に即して弾力的な運用を図るものとする。
- 3 有価証券の購入等にあたっての留意事項
- (1) 発行単価のアンダーパー、オーバーパーにかかわらず、最終利回りのより高い債券を購入することとする。
- (2) 原則として額面1億円単位で購入する。
- (3) 国債以外の有価証券を購入する際には、事前に発行要項及び目論見書等を購入予定先から入手し、安全性、確実性及び収益性について検討する。
- (4) 財投機関債、社債及び金融債を購入する場合は、その債券が指定格付機関からA格以上の格付けを受けているものを購入することとする。
- (5) 保有している債券の格付けが指定格付機関からA格未満に格下げされたとき又は債券の発行者の信用状態が著しく悪化するおそれがあると想定されるときは、速やかに債券運用会議に諮った上でその対応について決定する。
- (6) 取引にあたっては、特定の証券会社又は金融機関に取引額が偏らないように留意する。また、購入にあたっては、特定の発行体に過度に集中しないよう分散化に努める。

② 基金の管理及び運用における規定の遵守等

- 基金の管理・運用については、独立行政法人通則法及び独立行政法人日本万国博覧会記念機構法に基づき、日本万国博覧会記念基金管理規程、日本万国博覧会記念基金及び余裕金運用規程を定めており、これに基づき適正な管理・運用に努めた。
- また、透明性の確保の観点から、平成23年度中の基金の運用状況等について、平成24年8月にホームページで公表した。

3. 予算、収支計画及び資金計画

(1) 公園に関する事項

- 平成24年度は、閑散期イベントの定着、大型イベント(野外コンサート)の誘致が奏功したことや、桜の開花が平成25年3月下旬頃に早まったことなどから、入園者数は年度計画(1,557千人)を上回る1,825千人となった。
- また、スポーツ施設等の利用件数は13,018件と年度計画を上回った(詳細については、2.(1)①「利用者に対するサービスの向上」に記載)。
- 公園入場料等収入については、有料入場者が約1,393千人と予算編成上の入場者数見込み(約1,256千人)を上回ったことや、入場者の増加に伴い駐車場収入が増加したことなどにより、平成24年度の「公園入場料等収入」は1,392百万円となり、年度計画(1,380百万円)に対し12百万円(0.9%)上回った。

平成24年度公園入場料等収入 (単位：百万円)

実績①	計画②	差(①-②)	達成率
1,392	1,380	12	100.9%

- また、平成24年度「公園入場料等収入」の実績は、中期計画の目標数値である1,391百万円(平成17年度から21年度の実績6,957百万円の年度平均)を1百万円(0.1%)上回った。

平成24年度公園入場料等収入と中期計画との比較 (単位：百万円)

実績①	中期計画②	平均(②/5)	差(①-③)	達成率
1,392	6,957	③1,391	1	100.1%

- 平成24年度の計画に対する実績(第1号勘定と第2号勘定の合計)については、予算ベースでは収入101%、支出95%、収支ベースでは、収益100%、費用94%、当期総利益3,583%、資金計画ベースでは、資金収入・支出とも105%となっている。(詳細は別紙3)

- 実績の経年比較(同)については、次のとおりである。(詳細は別紙4)

予算ベース (単位：百万円)						
年度	18年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
収入	4,366	3,554	3,993	4,197	3,527	3,279
支出	4,020	3,388	3,597	3,542	3,335	2,887
収支ベース (単位：百万円)						
年度	18年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
収入	3,588	3,297	3,610	3,786	3,364	3,227
支出	3,335	3,201	3,365	3,645	3,240	3,012
当期総利益	307	96	245	142	124	215
資金計画ベース (単位：百万円)						
年度	18年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
資金収入・支出	8,298	7,802	8,176	10,491	11,112	9,338

- 貸借対照表及び利益の処分に関する書類の経年比較(同)については、次のとおりである。(詳細は別紙5)

貸借対照表 (単位：百万円)						
年度	18年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
資産	149,071	148,078	149,108	149,563	148,984	148,775
負債	7,620	6,786	7,571	7,885	7,182	6,758
純資産	141,451	141,291	141,537	141,679	141,802	142,017
利益の処分に関する書類 (単位：百万円)						
年度	18年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
利益処分類	307	96	245	142	124	215

- 第2期中期計画において、基金事業については、環境・公園に関連する事業等への助成に重点化するとともに、万博記念公園の施設整備や低廉な公園入場料維持のため、公園事業への繰入れを増やすこととしており、平成24年度においては、前年度に引き続き50百万円の繰入れを行っている(平成20年度は15百万円)。

## (2) 基金に関する事項

平成24年度において運用利益金の未使用分があれば、積立金として計上する予定である。

## 4. 短期借入金の限度額

短期借入の実績はない。

## 5. 重要な財産を譲渡し、又は担保に供しようとするときは、その計画

重要な財産の譲渡、処分の実績はない。

## 6. 剰余金の使途

第1号勘定、第2号勘定ともに剰余金の使用の実績はない。

## 7. その他財務省令で定める業務運営に関する事項

### (1) 人事に関する計画

#### ① 職員の資質向上のための研修計画

- 第2期中期目標期間における「中期研修計画」に基づき、過去に実施した研修の受講報告書等を参考として「平成24年度研修計画」を策定した。

24年度においては、危機管理や防災・減災に関する研修に重点を置くとともに、引き続き内部統制の強化に資する研修、業務に関連した専門知識や技術の習得・向上を目的とした研修等の効率的・効果的な実施に努めた。

- 研修実施に当たっては、複数の時間帯から同内容の研修を選択して受講できるようにするなど受講促進に努めるとともに、受講者に対し研修目的の達成度等についてアンケートを行い、研修成果を実際の業務に反映させ、業務改善につなげるよう努めた。
- 職員のスキルアップを図るため、業務に関連した資格の取得を奨励しており、平成24年度は、「樹木医」、「公園管理運営士（2名）」、「緑の安全管理士」、「自衛消防業務講習修了者（5名）」等の資格を職員が取得した。
- 平成24年度の研修実績は次表のとおりである。

平成24年度職員研修の実施状況

研修項目	目的・主な研修内容	対象	参加人員
法規 (独立行政法人制度)	独立行政法人制度等に関する基礎知識を習得させる	新規派遣職員等	9名
マネジメント (内部統制)	内部統制に関する理解を深め、健全で倫理観の高い組織づくりを図る ・情報セキュリティ研修	全職員	49名
経営管理	労務管理に関する近時の課題であるパワハラや改正高年齢者雇用法等に関する知識を深める	担当職員	延べ5名
ビジネススキル	業務に必要な知識や技術を習得する ・タイムマネジメント研修 ・フォロワーシップ研修(係長級) ・アサーティブ・コミュニケーション研修(主事級) ・管理職(評価者)研修 ・都市公園等における遊具の日常点検講習会等	全職員 又は担当職員	延べ90名
人権・環境	人権問題・環境問題についての理解を深め、意識の向上を図る	担当職員	延べ7名
危機管理・危機対応 (防災)	防災・減災意識の向上を図るとともに、災害等発生時の実践的な対応方法について学ぶ ・上級救命講習 ・熱中症/搬送法/止血法に関する特別講習会 ・減災技術実践体験ワークショップ	全職員	延べ28名
自己啓発支援 (資格取得)	業務に必要な資格の取得を促進する ・樹木医研修 ・公園管理運営士 ・緑の安全管理士 ・自衛消防業務新規講習	担当職員	9名
計			延べ197名

## ② 人員計画

- 利用者サービスの向上、環境保全への取組み、地域社会への積極的な貢献等、機構に対する様々な課題に対応すべく、「第2期中期目標期間における業務執行計画」を策定している。

この計画に基づき、業務改善、民間の知見の活用、職員の資質向上、部・課を越えた横断的組織による業務推進などに取り組んだほか、定年退職者の補充として任期付の契約職員を採用するなど、常勤職員48名の体制を維持しながら、多様化・高度化する国民のニー

ズに迅速・的確に対応できるよう、機構のミッションの達成に向けて、これまで以上に効率的・効果的な事業の推進に努めた。

### ③ 内部統制

- 法人の長が組織にとって重要な情報を適時・的確に把握するとともに、法人のミッション等を役職員に周知徹底できるよう、毎月2回開催している理事会において、理事長に対し年度計画の進捗状況等について定期報告を行うとともに、理事長から直接各課に指示が伝えられる体制を確保している。
- 内部統制の一環として、法人のミッションや中期目標の達成を阻害する要因（リスク）を適切に管理するため、優先的に対応すべき重要なリスクを取りまとめた「リスク対応計画」を策定し、平成23年度からリスク管理を実施している。  
この計画に規定した個別のリスク項目については、各課から半期ごとにその管理状況について報告を受け、「コンプライアンス・リスク管理委員会」（平成24年9月20日・平成25年3月22日開催）においてその状況を評価するとともに、年度末にはリスク項目自体を見直し、「リスク対応計画」の改定を行っている。  
24年度は、特に年度計画や収支状況に影響を及ぼすおそれのある「事務ミス」について再定義を行い、各課の共通課題として新たに計画に盛り込んだ。
- また、内部統制に対する更なる意識の向上を図るため、外部講師を招き、具体的事例を交えた内容の「情報セキュリティ研修」を実施した（3月8日・役職員49名参加）。

### (2) 施設及び設備に関する計画

- 公園利用者の利便性の向上、安全確保に加えて、省資源・省エネルギー及び管理コスト軽減等のために、総額431百万円の整備工事を実施した。  
・主な工事の概要は次表のとおりである

目 的	工 事 名	概 要
安全確保	スポーツ広場北面 防球ネット改修工事	ボールのグラウンド外への飛び出し防止のため、防球ネットを設置。
	ソラード補修工事	木部及び鉄部の塗装の塗替えを実施。
環境保全	ナラ枯れ特別対策工事	日本庭園北側のナラ枯れ被害の拡大を防ぐための対策工事を実施した。
省資源・省エネルギー	インドアテニスコート LED化改修工事	省エネルギー、設備維持・取替費用圧縮の観点から照明器具のLED化を図った。
	弓道場遠的射場 LED化改修工事	省エネルギー、設備維持・取替費用圧縮の観点から明器具のLED化を図った。
万博遺産の保存	万里庵屋根葺替改修工事	桧皮葺きである屋根からの雨漏りが頻繁に発生するようになったため、改修工事を実施した
	万博記念ビル屋上防水 改修工事	記念ビルの機能を保持するため、屋上の防水工事を実施した。
バリアフリー化	記念競技場メインスタンド3階便所他改修工事	和式から洋式への改修と段差解消を図った。

### (3) 公園内の安全管理

#### 【訓練等の実施】

- EXPO'70 パビリオンのイベント開催時における避難訓練を受託者（一般社団法人関西環境開発センター）が実施した（8月17日）。  
・参加人数： 14名（受託者14名）  
・内 容： 館内避難口の確認、避難誘導
- 大阪日本民芸館において防災訓練を実施した（8月23日）。

- ・参加人数： 10名（機構3名、受託者7名）
- ・内 容： 非常ベル、消火器等防災設備の所在と使用方法の確認、消火器の放水訓練
- 万博記念競技場において消火訓練を実施した（11月27日）。
  - ・参加人数： 17名（機構2名、受託者4名、その他園内施設スタッフ11名）
  - ・内 容： 消火器の位置確認、非常用消火栓及び消火器の使用訓練
- EXPO'70パビリオンにおいて園内ゲート関係者も含めた避難訓練等を受託者（一般社団法人関西環境開発センター）が実施した（3月6日）。
  - ・参加人数： 41名（機構2名、受託者及びゲート関係者39名）
  - ・内 容： ①避難誘導訓練 ②事例別危機管理（強盗、落雷、大地震）等

### 【スポーツ施設地下空洞対策】

- 球技場及びスポーツ広場の地下に旧海軍山田地下弾薬庫跡と思われる空洞の一部が発見されたため、球技場は全面、スポーツ広場は一部の区域を平成25年2月から立入り禁止柵を設置するとともに施設の利用を中止した。なお、空洞の全容を把握するための調査及び埋め戻し等の安全対策を今後進めることとしている。

### 【イベントなどの安全管理】

- 公園内で実施する自主イベント、持ち込みイベントの安全管理については、平成23年10月1日付けで改正した「万博記念公園安全管理対応指針」及び「イベント安全管理マニュアル」に基づき適確な安全確認を行った。なお、年間の全イベント件数61件のうち、安全確認を要するイベントを次の17件と定め、イベント前と会期中のチェック、点検時の要改善事項の対応を併せて実施した。

番号	安全管理を要するイベント名	イベント開催前のチェック開始日	イベント会期中のチェック日	点検後の改善項目の有無
1	春のロハスフェスタ	4月16日	4月29日	無
2	FM802 FUNKY MARKET	5月2日	5月3日	無
3	こどもフェスティバル	5月2日	5月4日	有
4	螢の夕べ	5月31日	6月10日	無
5	FM802 MEET THE WORLD BEAT コンサート	7月27日	7月29日	無
6	情熱大陸コンサート	8月3日	8月4日	無
7	イルミナイト万博夕涼み	8月8日	8月11日	有
8	夏のロハスフェスタ	8月10日	8月18日	無
9	コブクロフリーライブ 「FAN'S MADE LIVE」	9月5日	9月9日	有
10	万博へGO! with MBS 2012	9月13日	9月15日	無
11	秋のロハスフェスタ	9月27日	10月6日	有
12	ABCラジオまつり	11月17日	11月18日	無
13	イルミナイト万博 X' mas	12月12日	12月14日	無
14	雪まつり	2月9日	2月10日	有
15	ABCラジオスプリングフェスタ	3月9日	3月10日	無
16	鉄道まつり	3月22日	3月24日	無
17	桜まつり	3月29日	3月30日	無

[安全確認を行ったイベントの内、事前や開催当日に改善を要したものは以下のとおり]

確認の実施日	イベント名 /[形態]	主な安全確認事項	対応状況
(事前) 5/2 (当日) 5/4	こどもフェスティバル /[共催]	(事前) ○各種許可手続き ○設営段階の会場内の電気配線状況 (当日) ○雑踏警備・設営物の飛散・売店許可証の掲出など	(事前) ○吹田保健所への届出書の写しが未提出のため書類提出を指示した ○電気配線はU字溝の中に入れること、地上部の配線は養生マットを敷設し安全確保するように指示した (当日) ○特になし
(事前) 8/8 (当日) 8/11	イルミナイト万博 夕涼み /[主催]	(事前) ○現場責任者の明確化 ○火災等天災における避難誘導訓練 (当日) ○手持ち花火会場の警備及び会場設営物の安全確認、売店許可証の掲出など	(事前) ○受託者提出の警備計画書に現場責任者の氏名、役割などを明記させた。また、来園者から見て現場責任者である事が判別できる表示を指示した ○事前訓練が未実施であったため、天災の発生時における詳細マニュアルの作成、会期中の訓練実施を指示した (当日) ○手持ち花火会場では、花火を行う際の注意事項などを場内放送するよう指示した
(事前) 9/5 (当日) 9/9	コブクロライブ 「FAN'S MADE LIVE」 /[持込]	(事前) ○5万人の規制退場の方法 ○ゲリラ雷雨時の避難方法 (当日) ○入場方法の確認 ○規制退場の確認	(事前) ○吹田警察署の指導の下、終演時における規制退場、ゲリラ雷雨発生時における避難施設の指定と誘導の警備計画を作成するよう指示した (当日) ○入場待列が一般来園者と交差している所、走って入場する観客が散見したため、警備を強化するよう指示をした ○規制退場時に、勝手に退場する方が散見していたので制止させた
(事前) 9/27 (当日) 10/6	秋のロハスフェスタ /[持込]	(事前) ○警備運営マニュアルの確認(悪天候時における屋根付き避難場所の設定) ○テント設営状況(強風飛散防止) ○出展者の設営車両乗り入れ確認 (当日) ○飲食売店の出展許可書の掲出	(事前) ○当初の警備運営マニュアルでは、悪天候時の避難場所としてバーベキューコーナーを指定していたが、運営者側から営業中は利用者からのクレームが発生することから当該地を除外する旨指示した (当日) ○飲食出店92店舗のうち、75店舗が「露店出店許可書」の掲出がなかったことから、次回の開催に向け改善を指示した
(事前) 2/9 (当日) 2/10	雪まつり /[主催]	(事前) ○トイレ・授乳室の案内サイン設置計画 (当日) ○露店出店の営業許可証の掲出、グリストラップ設置(雑排水)有無 ○危険な箇所(降雪機周囲・フェスティバルスタンド屋根)への警備強化	(事前) ○会場内に臨時サイン(A3パウチ)を設けるように指示した (当日) ○事前にグリストラップを設置する指示を行っていたが、当日未施工であったため、調理雑排水を極力流さない様に指示した ○人工降雪機周辺に人止柵を2重に設置すること、フェスティバルスタンドアクリル屋根に登らないように監視体制を強化した

### 【公園利用者の安全確保】

- 野生ザル確保
  - ・ニホンザルが自然文化園内に侵入。大阪府、吹田市に通報するとともに監視、府の獣医師により麻酔で捕獲、市に引き渡した（9/21）  
→朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、産経新聞が掲載（9/22）

### 【受託者と連携した安全確認等】

- 熱中症対策については、万博公園だより、ホームページ、園内各ゲートの掲示板で注意喚起をするほか、適宜園内放送を行った。夏の野外コンサートで、熱中症患者が発生したが、待機している医者による応急処置を講じるとともに、救急車による病院への搬送を行った。

### 【落雷対応策】

- 自然文化園中央口に設置している雷情報システムから発信される情報で、雷雲が公園から半径10km圏内に接近した際は、来園者に対してタイムリーに避難告知の園内放送を行ったほか、同時に運動施設などへも情報提供を行った。イベントやスポーツ大会の主催者は、雷情報への関心は高く、雷情報システムは催し物や事業の決行・中止判断に役立っている。

### 【取組状況の発信】

- これらの取組状況については、ホームページ等で公表している。

## (3) 公園内の安全管理

### 【訓練等の実施】

- 24年2月に改定した機構の「消防計画」に基づき、大規模災害が発生した際に、機構役職員が自ら避難誘導・初期消火・応急救護等の初期対応（自衛消防活動）を行うための「自衛消防組織」を編成している。

この自衛消防組織を有効に機能させ、各自が自衛消防活動における任務を理解し、迅速かつ適切に対応できるよう、定期的に訓練を実施しており、24年度は2月15日に記念ビルで消防防災訓練を実施した。

訓練には消防署員立会いのもと、全役職員が参加するとともに、警備員や各テナントにも参加を要請し、実施後は次回の訓練に活かせるよう、防火防災管理者以下、自衛消防組織の各班長等で反省会を開催し、課題等について検討した。

今後も、各種訓練や研修・講習会の実施等により、防災・減災意識の向上、危機管理・危機対応のレベルアップを図ることとしている。 《再掲》

平成 25 年 3 月 31 日現在  
(敬称略)

## 日本万国博覧会記念基金事業審査会委員

役職名	氏名	所 属
委員長	西 尾 章 治 郎	大阪大学大学院情報科学研究科教授
委 員	秋 道 智 彌	大学共同利用機関法人人間文化研究機構 総合地球環境学研究所 研究推進戦略センター教授
委 員	浅 岡 美 恵	特定非営利活動法人気候ネットワーク代表、弁護士
委 員	稲 永 純 二	九州大学先導物質化学研究所教授
委 員	小 島 誠 二	外務省特命全権大使（関西担当）
委 員	佐 藤 友 美 子	公益財団法人サントリー文化財団上席研究フェロー
委 員	鷺 谷 い づ み	東京大学大学院農学生命科学研究科教授

## 審査会専門部会 委員

部会名	役職名	氏名	所 属
環境第1部会	部会長	谷 口 研 二	国立奈良工業高等専門学校長
	委 員	杉 原 充 志	羽衣国際大学副学長・現代社会学部教授
	委 員	夏 原 由 博	名古屋大学大学院環境学研究科教授
	委 員	花 嶋 温 子	大阪産業大学人間環境学部講師
	委 員	弘 本 由 香 里	大阪ガス株式会社エネルギー・文化研究所特任研究員
環境第2部会	部会長	平 野 茂 樹	大阪ガス株式会社顧問
	委 員	苧 阪 満 里 子	大阪大学大学院人間科学研究科教授
	委 員	河 内 厚 郎	文化プロデューサー、神戸夙川学院大学教授
	委 員	中 村 佳 正	京都大学大学院情報学研究科教授
	委 員	藤 本 豊 士	名古屋大学医学部・大学院医学系研究科教授
国際相互理解・ 文化活動部会	部会長	木 津 川 計	雑誌『上方芸能』発行人、和歌山大学観光学部客員教授
	委 員	荒 起 一 夫	公益財団法人吹田市文化振興事業団理事長
	委 員	勝 岡 洋 治	大阪医科大学名誉教授
	委 員	窪 田 好 男	京都府立大学公共政策学部准教授
	委 員	高 橋 憲 明	中之島科学研究所長

## 平成 25 年度交付決定事業一覧

## 【環境に関する事業】

NO	事業者名	事業名	交付決定額(円)
1	OPTICS&PHOTONICS International 協議会	光とフォトニクスに関する国際会議	1,400,000
2	国際火山学地球内部化学協会 2013 年学術総会組織委員会	国際火山学地球内部化学協会 2013 年 学術総会	3,400,000
3	公益社団法人電気化学会キャパ シタ技術委員会	国際先端キャパシタ技術会議開催事業	2,900,000
4	エコトピア科学に関する国際 シンポジウム 2013 組織委員会	エコトピア科学に関する国際 シンポジウム 2013	1,800,000
5	第 6 回霧、霧採取および露に 関する国際会議組織委員会	「第 6 回霧、霧採取、露に関する国際 会議」の開催事業	2,500,000
6	第 32 回熱電変換国際会議 実行委員会	第 32 回熱電変換国際会議	2,400,000
7	国際コモンズ学会北富士大会 組織委員会	国際コモンズ学会第 14 回世界大会 ：北富士大会	3,400,000
8	「第 4 回クラゲ大発生に関する 国際シンポジウム」実行委員会	第 4 回クラゲ大発生に関する 国際シンポジウム	1,100,000
9	NPO 法人世界平和海洋訓練教育 協会	アジア太平洋津波災害支援会議	1,000,000
10	CAWSES-II 国際シンポジウム 実行委員会	太陽活動が地球周辺の宇宙空間と大気 環境に与える影響に関する CAWSES-II 国際シンポジウムの開催	2,700,000
11	宮崎大学国際連携センター 研究部門 IRISH	パプアニューギニア鉱害対策支援事業	900,000
12	特定非営利活動法人 日本口唇口蓋裂協会	世界における口唇口蓋裂などの先天的な 病気の治療技術の向上を目指して～いじ めをなくし、子どもたちに“笑み”を～	3,100,000
13	第 33 回溶液化学国際会議 組織委員会	第 33 回溶液化学国際会議	2,400,000
14	第 18 回半導体・オプトエレクトロ ニクス・ナノ構造中の電子ダイナ ミクスに関する国際会議組織委員会	半導体・オプトエレクトロニクス・ ナノ構造中の電子ダイナミクスに 関する国際会議	1,400,000
15	第 19 回固体イオニクス国際会議 組織委員会	第 19 回固体イオニクス国際会議 組織委員会	2,600,000
16	大阪ヨーロッパ映像文化振興会	第 20 回大阪ヨーロッパ映画祭	2,000,000
17	NPO 法人地球と握手	地球と握手 東北の復興から発展へ・心の サポート 2013 モデル	800,000
18	確率論的安全評価と管理に関する トピカル会議組織委員会	確率論的安全評価と管理に関する トピカル会議	2,800,000
19	公益社団法人日本分析化学会 X 線分析研究懇談会	第 15 回全反射蛍光 X 線分析法に関する 国際会議	1,100,000
20	日蘭学生会議	第 4 回日蘭学生会議	1,200,000
21	第 16 回 II-VI 族化合物および関連 材料に関する国際会議組織委員会	第 16 回 II-VI 族化合物および関連材料に 関する国際会議	1,400,000
22	環境人材育成コンソーシアム	アジア環境人材育成研究交流大会	1,100,000
23	シリコンカーバイド及び関連材料 に関する国際会議 2013 組織委員会	シリコンカーバイド及び関連材料に 関する国際会議 2013	2,300,000
24	2013 年高エネルギー物質の利用 に関する国際会議組織委員会	2013 年高エネルギー物質の利用に 関する国際会議	600,000

25	米国アイダホ大学・芸術及び建築学部	国際デザインコンペによる被災地復興を目的とした自然の法則に基づく地域づくり計画の提案	600,000
26	Centre for Media Studies	第7回 CMS VATAVARAN - Environment and Wildlife Film Festival and Forum, 2013	4,200,000
	合 計		26件 51,100,000

【国際相互理解・文化活動に関する事業】

NO	事業 者 名	事 業 名	交付決定額(円)
1	大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構物質の起源と銀河の進化シンポジウム組織委員会	国際シンポジウム「物資の起源と銀河の進化」	900,000
2	第12回国際異種移植学会及びiABO・HI国際会議組織委員会	第12回国際異種移植学会及びiABO・HI国際会議	2,200,000
3	科学教育を推進する有識者の会	国際会議：複雑系科学と科学教育 in 京都	1,500,000
4	社団法人粉体粉末冶金協会	第11回国際フェライト会議	3,200,000
5	テラヘルツ光科学・技術に関する国際会議2013組織委員会	第5回テラヘルツ光科学・技術に関する国際会議	700,000
6	公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団	さいたまゴールド・シアター第6回公演「鴉よ、おれたちは弾丸をこめる」パリ公演	1,700,000
7	特定非営利活動法人エデュケーション・ガーディアンシップ・グループ	第18回海外高校生による日本語スピーチコンテスト及び青少年のための異文化交流プログラム	1,200,000
8	あいちトリエンナーレ実行委員会	「あいちトリエンナーレ2013」における移動型巡回展示事業（トリエンナーレトラック（仮称））	5,900,000
9	2013ITAA 国際大会 inOSAKA 主催者委員会	2013年度国際交流分析協会大会	3,000,000
10	公益財団法人全国里親会	里親等の家庭養護を推進する国際会議（IFC02013 大阪世界大会）の開催	3,400,000
11	特定非営利法人和歌の浦万葉薪能の会	第15回和歌の浦万葉薪能	1,000,000
12	公益財団法人ボーイスカウト日本連盟	第16回日本ジャンボリー外国スカウト特別招待計画	3,900,000
13	第三回ICDL-EPIROB 実行委員会	発達と学習および発達ロボティクスに関する第3回国際会議	900,000
14	第8回衝撃工学に関する国際シンポジウム組織委員会	第8回衝撃工学に関する国際シンポジウム	2,900,000
15	京都国際舞台芸術祭実行委員会	京都国際舞台芸術祭2013	7,000,000
16	公益財団法人山本能楽堂	国登録有形文化財・山本能楽堂の国際文化交流のための環境整備事業	2,000,000
17	子ども劇場おやこ劇場全国フォーラム	アートビレッジキャンプ2013in 福島	1,000,000
18	第13回固体酸化物形燃料電池国際会議実行委員会	第13回固体酸化物形燃料電池国際会議の開催	1,800,000
19	アルザス・欧州日本学研究所	ヨーロッパ日本研究図書館及びメディアセンター-建物改修ならびに図書館・アーカイブ収蔵施設購入-	9,500,000
20	タリン市公共土木事業部	カドリオルグ公園内日本庭園における日本の伝統的な茶室の設計および建設	4,000,000
21	日本アナトリア考古学研究所	X線利用による文化財保存	8,100,000
22	国立交響楽団基金	国立交響センター改修事業	8,000,000
	合 計		22件 73,800,000

【万博公園賑わい創出支援事業】

NO	事業者名	事業名	交付決定額(円)
1	公益財団法人大阪日本民芸館	大阪日本民芸館春季特別展記念講演会 及び大阪日本民芸館秋季特別展記念講演会	1,500,000
2	関西吹奏楽連盟	ブラスエキスポ '13	4,400,000
3	NPO 法人日本ノルディック フィットネス協会	第6回ノルディックフィットネス フォーラム 2013in 大阪	1,800,000
4	世界の民族音楽&スポーツフェスタ 実行委員会	万博公園 こどもフェスティバル 親子で地球にいいこと体験&こどもエコ マーケット	3,300,000
5	科学の祭典実行委員会野外実験班	理科実験野外教室～防災・安全・ 省エネルギー～	1,100,000
6	財団法人大阪国際児童文学館	夏休み大特集：子どもの本に見る 科学の不思議！	1,400,000
7	財団法人大阪国際児童文学館	万博の自然を楽しみながら海外絵本作家 とともに絵本を創ろう！	1,100,000
8	社団法人国際音楽交流協会	日露交歓コンサート 2013（万博会場）	3,900,000
9	特定非営利活動法人 野と森の遊び文化協会	古農具スポレク	1,500,000
10	特定非営利活動法人 野と森の遊び文化協会	”万博公園で学ぶ災害で生き残る技術” 減災技術体験イベント	1,500,000
11	特定非営利活動法人インクルージョン プログラムラボラトリ	新体力テスト in 万博公園	1,500,000
12	能楽振興協会	日本庭園で能楽に親しむ	1,500,000
13	大学共同利用機関法人人間文化 研究機構国立民族学博物館	国立民族学博物館とメディアによる 異文化イベント（仮称）	3,000,000
14	大学共同利用機関法人人間文化 研究機構国立民族学博物館	特別展「マダガスカル 霧の森の暮らし」	5,000,000
15	一般社団法人関西環境開発センター	日本万国博覧会 EXPO'70 パビリオン 企画展「太陽の塔解体新書」（仮称） 特別展『「人類の進歩と調和」大阪万博・ テーマ館のすべて』（仮称）	5,000,000
16	財団法人千里文化財団	万博・民博ものがたり	5,000,000
17	財団法人千里文化財団	親子ワークショップ 世界の土の家ー 家づくりに土を使う	3,600,000
18	北欧の音楽ピクニック実行委員会	こどもの森の音楽ピクニック ～'自然' と'音楽'を愛する子供たちへ～	3,900,000
	合 計		18件 50,000,000

## 予算、収支計画及び資金計画の計画に対する実績

## (1) 予算の状況

## 第1号勘定（公園事業）

（単位：百万円）

	中期計画	年度計画A	4月～3月までの実績	
	5カ年	24年度	実績額	対A
収入				
業務収入	11,825	2,194	2,208	101%
その他の収入	5,703	1,504	764	51%
計	17,528	3,698	2,972	80%
支出				
管理運営費	11,889	2,296	2,179	95%
人件費	2,715	556	492	88%
管理諸費	9,175	1,739	1,687	97%
公園整備費	4,999	1,232	431	35%
その他の支出	—	—	—	—
計	16,888	3,528	2,610	74%

## 第2号勘定（基金事業）

（単位：百万円）

	中期計画	年度計画A	4月～3月までの実績	
	5カ年	24年度	実績額	対A
収入				
業務収入	1,539	300	307	102%
その他の収入	1	0	0	63%
計	1,541	300	307	102%
支出				
管理運営費	285	50	41	82%
人件費	240	42	36	86%
管理諸費	45	8	6	75%
基金事業費	927	169	156	92%
その他の支出	328	82	80	98%
計	1,541	300	277	92%

## 第1号勘定と第2号勘定の合計

（単位：百万円）

	中期計画	年度計画A	4月～3月までの実績	
	5カ年	24年度	実績額	対A
収入				
業務収入	13,364	2,494	2,515	101%
その他の収入	5,704	1,504	764	51%
計	19,068	3,998	3,279	82%
支出				
管理運営費	12,174	2,345	2,220	95%
人件費	2,955	598	528	88%
管理諸費	9,220	1,747	1,692	97%
公園整備費	4,999	1,232	431	35%
基金事業費	927	169	156	92%
その他の支出	328	82	80	98%
計	18,429	3,828	2,887	75%

（注）各欄積算と合計欄の数字及び対比率については、四捨五入の関係で一致しないことがある。

## (2) 収支の状況

## 第1号勘定

(単位：百万円)

	中期計画	年度計画A	4月～3月までの実績	
	5ヵ年	24年度	実績額	対A
収益の部				
経常収益	15,202	2,898	2,882	99%
公園事業収入等	12,901	2,497	2,463	99%
財務収益	1,734	333	350	105%
その他の収入	567	68	69	101%
臨時収益	—	—	38	皆増
計	15,202	2,898	2,920	101%
費用の部				
経常費用	14,801	2,891	2,734	95%
公園事業費等	14,784	2,889	2,716	94%
その他の費用	17	3	18	600%
臨時損失	—	—	13	皆増
計	14,801	2,891	2,747	95%
純利益	402	6	173	2,883%
目的積立金取崩額	—	—	—	—
総利益	402	6	173	2,883%

## 第2号勘定

(単位：百万円)

	中期計画	年度計画A	4月～3月までの実績	
	5ヵ年	24年度	実績額	対A
収益の部				
経常収益	1,539	300	307	102%
基金運用収入	1,539	300	307	102%
臨時収益	—	—	—	—
計	1,539	300	307	102%
費用の部				
経常費用	1,539	300	265	88%
基金事業費等	1,324	250	213	85%
その他の費用	215	50	52	104%
臨時損失	—	—	—	—
計	1,539	300	265	88%
純利益	—	—	42	皆増
目的積立金取崩額	—	—	—	—
総利益	—	—	42	皆増

## 第1号勘定と第2号勘定の合計

(単位：百万円)

	中期計画	年度計画A	4月～3月までの実績	
	5カ年	24年度	実績額	対A
収益の部				
経常収益	16,742	3,198	3,188	100%
公園事業収入等	12,901	2,497	2,463	99%
基金運用収入	1,539	300	307	102%
財務収益	1,734	333	350	105%
その他の収入	567	68	69	101%
臨時収益	—	—	38	皆増
計	16,742	3,198	3,227	101%
費用の部				
経常費用	16,340	3,192	2,999	94%
公園事業費等	14,784	2,889	2,716	94%
基金事業費等	1,324	250	213	85%
その他の費用	232	53	70	132%
臨時損失	—	—	13	皆増
計	16,340	3,192	3,012	94%
純利益	402	6	215	3,583%
目的積立金取崩額	—	—	—	—
総利益	402	6	215	3,583%

(注) 各欄積算と合計欄の数字及び対比率については、四捨五入の関係で一致しないことがある。

## (3) 資金の状況

## 第1号勘定

(単位：百万円)

	中期計画	年度計画A	4月～3月までの実績	
	5ヵ年	24年度	実績額	対A
資金収入	29,344	6,619	7,024	106%
業務活動による収入	14,794	2,736	2,946	108%
業務収入	14,579	2,686	2,822	105%
その他の収入	215	50	124	248%
投資活動による収入	13,550	3,300	3,500	106%
財務活動による収入	—	—	—	—
前期よりの繰越金	1,000	583	579	99%
資金支出	29,344	6,619	7,024	106%
業務活動による支出	12,742	2,393	2,405	101%
人件費支出	2,636	507	581	115%
国庫等納付金の支払額	351	—	—	—
その他の業務支出	9,755	1,886	1,824	97%
投資活動による支出	15,983	3,681	3,767	102%
財務活動による支出	20	1	1	100%
次期への繰越金	600	544	852	157%

## 第2号勘定

(単位：百万円)

	中期計画	年度計画A	4月～3月までの実績	
	5ヵ年	24年度	実績額	対A
資金収入	11,222	2,274	2,313	102%
業務活動による収入	1,541	300	316	105%
業務収入	1,541	300	316	105%
その他の収入	—	—	—	—
投資活動による収入	9,603	1,900	1,900	100%
財務活動による収入	—	—	—	—
前期よりの繰越金	78	74	97	131%
資金支出	11,222	2,274	2,313	102%
業務活動による支出	1,564	299	279	93%
人件費支出	360	68	65	96%
その他の業務支出	1,203	231	214	93%
投資活動による支出	9,603	1,900	1,896	100%
財務活動による支出	—	—	—	—
次期への繰越金	55	75	138	184%

## 第1号勘定と第2号勘定の合計

(単位：百万円)

	中期計画	年度計画A	4月～3月までの実績	
	5カ年	24年度	実績額	対A
資金収入	40,566	8,893	9,338	105%
業務活動による収入	16,335	3,036	3,262	107%
業務収入	16,120	2,986	3,138	105%
その他の収入	215	50	124	248%
投資活動による収入	23,153	5,200	5,400	104%
財務活動による収入	—	—	—	—
前期よりの繰越金	1,078	656	676	103%
資金支出	40,566	8,893	9,338	105%
業務活動による支出	14,306	2,692	2,683	100%
人件費支出	2,996	575	646	112%
国庫等納付金の支払額	351	—	—	—
その他の業務支出	10,958	2,117	2,038	96%
投資活動による支出	25,586	5,581	5,663	101%
財務活動による支出	20	1	1	100%
次期への繰越金	655	620	990	160%

(注) 各欄積算と合計欄の数字及び対比率については、四捨五入の関係で一致しないことがある。

## 予算、収支計画及び資金計画に関する実績（決算額）の経年比較表

## (1) 予算

## 第1号勘定と第2号勘定の合計

(単位：百万円)

区 分		18年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	区 分		18年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
収 入	業務収入	2,832	2,649	2,801	2,672	2,569	2,515	支 出	管理運営費	2,550	2,454	2,411	2,359	2,334	2,220
	その他の収入	1,534	905	1,192	1,525	958	764		人件費	578	582	568	554	562	528
									管理諸費	1,973	1,872	1,842	1,805	1,772	1,692
									公園整備費	1,229	684	947	920	753	431
									基金事業費	210	219	161	184	167	156
									その他の支出	31	30	78	78	80	80
	計	4,366	3,554	3,993	4,197	3,527	3,279		計	4,020	3,388	3,597	3,541	3,335	2,887

## (2) 収支計画

## 第1号勘定と第2号勘定の合計

(単位：百万円)

区 分		18年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	区 分		18年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
収 益 の 部	経常収益	3,588	3,297	3,602	3,426	3,346	3,188	費 用 の 部	経常費用	3,335	3,164	3,355	3,275	3,218	2,999
	公園事業収入等	2,695	2,490	2,740	2,616	2,515	2,463		公園事業費等	3,050	2,878	3,079	2,977	2,921	2,716
	基金運用収入	331	331	325	314	332	307		基金事業費等	267	269	224	245	244	213
	財務収益	436	390	376	372	378	350		その他の費用	19	18	53	53	53	70
	その他の収入	126	86	161	124	121	69		臨時損失	-	36	10	370	22	13
	臨時収益	-	-	8	360	18	38		計	3,335	3,201	3,365	3,645	3,240	3,012
	計	3,588	3,297	3,610	3,786	3,364	3,227		純利益	252	96	245	142	124	215
							目的積立金取崩額	55	-	-	-	-	-		
							総利益	307	96	245	142	124	215		

## (3) 資金計画

## 第1号勘定と第2号勘定の合計

(単位：百万円)

区 分		18年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	区 分		18年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
資 金 収 入	業務活動による収入	3,657	3,324	3,440	3,779	3,367	3,262	資 金 支 出	業務活動による支出	3,042	3,344	2,836	2,876	2,986	2,684
	業務収入	3,533	3,198	3,350	3,620	3,235	3,138		人件費支出	672	663	654	655	612	646
	その他の収入	124	126	90	159	132	124		その他の業務支出	2,370	2,275	2,181	2,221	2,374	2,038
	投資活動による収入	3,046	3,053	4,000	6,300	6,631	5,400		国庫等納付金の支払額	-	406	-	-	-	-
	財務活動による収入	-	-	-	-	-	-		投資活動による支出	4,525	3,714	4,924	6,497	7,448	5,663
									財務活動による支出	-	7	4	4	2	1
	前期からの繰越金	1,595	1,425	736	412	1,114	676		次期への繰越金	731	736	412	1,114	676	990
	計	8,298	7,802	8,176	10,491	11,112	9,338		計	8,298	7,802	8,176	10,491	11,112	9,338

(注) 各欄積算と合計欄の数字については、四捨五入の関係で一致しないことがある。

## 貸借対照表及び利益の処分に関する書類の経年比較表

## (1) 貸借対照表

(法人単位)

(単位：百万円)

区 分	18年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	区 分	18年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度		
資 産 の 部	流動資産	4,684	5,085	6,995	4,681	6,237	4,044	負 債 ・ 資 本 の 部	流動負債	901	589	785	1,074	714	566
	固定資産	144,386	142,992	142,113	144,883	142,747	144,732		固定負債	6,719	6,197	6,787	6,811	6,467	6,193
									負債合計	7,620	6,786	7,571	7,885	7,182	6,758
									資本金	121,978	121,978	121,978	121,978	121,978	121,978
									基金	18,586	18,812	18,812	18,812	18,812	18,812
									利益剰余金	887	502	747	889	1,013	1,227
									公園整備積立金	-	-	-	-	-	-
									助成事業積立金	-	-	-	-	-	-
									積立金	580	406	502	747	889	1,013
									当期末処分利益	307	96	245	142	124	215
資産計	149,071	148,078	149,108	149,563	148,984	148,775	資本合計	141,451	141,291	141,537	141,679	141,802	142,017		
							負債・資本合計	149,071	148,078	149,108	149,563	148,984	148,775		

## (2) 利益の処分に関する書類

(法人単位)

区 分	18年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
当期末処分利益	307	96	245	142	124	215
当期総利益	307	96	245	142	124	215
利益処分額	307	96	245	142	124	215
積立金	307	96	245	142	124	215
独立行政法人通則法第44条第3項により 主務大臣の承認を受けた額						
公園整備積立金	-	-	-	-	-	-
助成事業積立金	-	-	-	-	-	-

24年度は、未承認

(注) 各欄積算と合計欄の数字については、四捨五入の関係で一致しないことがある。

## 公園整備等に関する計画の執行実績

(単位:百万円)

区 域	中期計画	年度計画	実績額	実績累計額	年度計画	中期計画
	平成 20～24 年度 (a)	平成 24 年度 (b)	平成 24 年度 (c)	平成 20～24 年度 (d)	達成率 (c) / (b)	達成率 (d) / (a)
日本庭園	331	51	42	221	82%	67%
自然文化園	3,709	943	200	2,570	21%	69%
スポーツ施設地区	864	175	155	705	89%	82%
旧スポーツランド地区	—	—	7	13	皆増	皆増
管理サービス地区	94	64	26	226	41%	240%
合 計	4,999	1,232	431	3,735	35%	75%

(注)各欄積算と合計欄の数字及び対比率については、四捨五入の関係で一致しないことがある。

## 平成 24 年度主要工事一覧(区域別 1 千万円以上 設計監理・調査委託費含む (単位:百万円)

区 域	工 事 名	金 額
日本庭園	万里庵屋根葺替改修工事	28
	小 計	28
自然文化園	東の広場便所改修工事	37
	自然文化園内下水道分流化工事	27
	お祭り広場井水管改修工事	23
	植栽アセットマネジメント計画策定	11
	太陽の塔内部展示等復元化工事基本・実施設計	11
	東口連絡橋耐震補強工事実施設計	11
小 計	120	
スポーツ施設地区	万博記念競技場メインスタンド便所他改修工事	49
	インドアテニスコート他照明器具改修工事	38
	テニスコート改修工事	23
	テニスコート休憩所新設その他改修工事	18
	小 計	128
管理サービス地区	万博記念ビル西コア棟屋上他改修工事	14
	小 計	14
	合 計	290

※区域区分の関係で、主要工事一覧の金額は契約金額と一致しない場合がある。

財源別執行金額は、次のとおりである。

第二号勘定からの繰り入れ 50 百万円 ソラード塗装補修工事他  
 長期預り金資産整備事業費 112 百万円 万里庵屋根葺替改修工事他